Ⅰ　教育学研究科履修案内

１．教育学研究科の目的

横浜国立大学大学院教育学研究科は、これまで幾度かの改革を重ねて様々な社会の要請に応えつつ、教育の現在的諸課題に取り組んできている。しかし、社会環境の急速な変化に伴い、学校教育をめぐる諸問題が複雑・深刻化するなか、より高度で実践的な能力を備えた教員・研究者・専門家の養成が望まれている。これに応えるべく、新教育学研究科を設立した。

本研究科が専攻名に掲げた「実践」とは、現時点での有効性にとらわれがちな旧来の狭義のそれではない。「種々の複雑な問題・課題を抱えた状況に対し、理論的かつ実際的に関わって状況そのものを変革するとともに、自らも変わろうとする柔軟で創造的な営み」を目指すものである。

たとえば学校現場における実践性とは、①子どもとのコミュニケーション能力、人格形成や生活指導・生徒指導に関わる面　②教科内容を教える方法や、教科内容の深い理解といった授業・学習指導と学力形成に関わる面があげられる。

また「学」としての実践性は、教育科学、教科教育学、教科内容学のいずれもが、人間と社会の再生産、及びその公教育における現実化、例えば教育理念としての「生きる力」のような共通の基盤の上に立って、力動的な知として活性化されることが課題となっている。本研究科のカリキュラムの中核にコア科目「教育デザイン」と必修科目「教育インターン」を配置した理由はここにある。両科目が連動することにより学生は、自分自身の研究との関係から学校現場等に関する実践的な認識を獲得し、有用な提言のできる能力を身につけることが可能になるであろう。

「教育デザイン」とは実践性を重視し、教育研究の様々なジャンルを活用しつつ、教育現場や社会の現実に対応して変革を提案しうる実践力・創造力を養い、新しい教育のあり方や方法を研究開発していくことであり、その成果が現在、さらには近未来に目を向けて提言し、実証されることを意味している。

教科別・ジャンル別の固定的な教育・研究の枠にとどまらず、現代社会に即応できる、あるいは近未来を見据えた、新しいスタイルや内容による「教育デザイン」を実現していくことが、本教育学研究科の目的である。

２．カリキュラム

研究科共通科目のコア科目「教育デザイン」、実践活動中心の「教育インターン」に加えて、学術研究中心の「教育科学科目群」「教育開発科目群」「教科内容科目群」、「特別支援教育に関する科目」もしくは「臨床心理学に関する科目」といった選択必修科目を、教員の支援を受けつつ、学生自身のデザインに即して履修し、最終的に修士論文へと結実させる。学校教育の課題のみならず、広く保護者や地域をも視野に入れた研究課題に取り組み、これらの成果は学内で開かれる教育デザインフォーラムなどでの報告や、学会発表・学術論文として公表するなど、広く社会的な検証を受けることとする。

（１）コア科目「教育デザイン」

本研究科の共通コア科目「教育デザイン」は、研究科所属の教員全員が担当する科目であるが、実際には、各学生のコア科目担当教員が他の教員と自由に連携協力して指導するゼミ形式あるいはワークショップ形式の授業形態をとる。各教員が、「研究計画書」及び入学後の面接をもとに、学生の取り組みが、単なる机上の学問に陥って学校現場から乖離することなく、あるいは安易な現場主義にとどまることなく、現代社会を見据え、近未来社会の諸問題と深く関わった「教育デザイン」を実現するよう指導する。教員自身もまた、自らの教育・研究内容を学校教育の課題と照合し、自らの学問を新たな「学」へと練り上げていく。

学生は、教員と協働し、授業や学級・学校、地域連携といった教育のプランとプロセスを設計していく。アウトプットを明確にするために、各自の研究目的と方法、専門分野に応じて、学生は自分の「教育デザイン」の担当教員の指導を受けつつ研究を進め、また、具体的な検証のための教育インターンをいかなる目的と方法意識でいかなる時期に行うかを決定する。

（２）必修科目「教育インターン」

コア科目等の学習を教育現場で検証し、検証によってさらなる研究の深化を図るために、コア科目と連動させた「教育インターン」を配置する。

「教育インターン」は、学生が自らの目的と解決すべき課題を持って現場に赴き、大学教員の指導を受けつつ、その課題に取り組むための科目である。附属学校をはじめとする学校現場における「教育インターン」の他にも、教育関連機関・施設、学生自らの実践の現場などで検証を行うことも可能である。

「教育インターン」は１日の活動を６回行うことが基本になる。これをもとに、学生個々人の研究に応じた履修内容と、学生個々人の経験に応じた履修頻度を選択可能なものとする。

「教育インターン」の期間は、①（長期型：週１日６週間）・②（中期型：週２日３週間）・③（短期型：週３日２週間）・④（フレックス型：目的及びフィールドの特性に合わせた設定）の４タイプをモデルとする。インターン（実習・調査）を深めたい学生は、４タイプのうちから、同タイプまたは別タイプの「教育インターン」を複数回履修することもできる。

特別支援教育・臨床心理学コースにおいても、コア科目「教育デザイン」の学習を教育現場及び相談機関で検証し、さらなる研究・実践の深化をはかるために、「教育インターン」を配置する。

（３）選択科目

教育デザインコースの選択科目

専修免許状取得のための教科または教職に関する科目であると同時に、学生が個々の教育デザインに取り組む基盤となる知識や研究方法を習得するための、基礎学としての役割を果たしている。

教育科学科目群・教育開発科目群・教科内容科目群の枠からの選択必修とする。専門領域（教育学・心理学及び各教科教育学）内での体系的な学習の他に、自らの教育デザインに基づき、専門領域を横断して科目を履修することで、教育の基盤に常に立ち返るとともに、新しい視点と知識を習得して、より自由な立場と発想から、自らの教育をもデザインする力を練り上げていく。教育科学・教科教育学・教科内容学は多岐にわたるが、以下、本教育学研究科で強調する方向性をあげてみる。それぞれの科目群が一定の特徴をもつことで、単なる融合ではない、協働関係が生み出される。

①教育科学科目群

専修免許状の「教職に関する科目」に対応する主として教育科学に関する科目群である。教育の諸科学に関する文献や情報を読解し分析する力を養うことで、研究や実践の諸課題を見出すにとどまらず、教育と人間の根幹に立ち戻って、学校や子どもの発達を、地域、社会、文化の広がりの中で構造的にみる力を養う。

②教育開発科目群

専修免許状の教科に対応する主として教科教育学の科目群である。この科目群は、新たな教育実践の開発・創出に向けて、各教科の授業実践力やその省察力の育成を目的とした「教科教授法講義・演習」と、授業の構想・構築力の育成を目的とした「教科カリキュラム論講義・演習」などによって構成される。この科目群の授業は、生きた実践に足場を置くかたちで、すなわちコア科目や教育インターン科目との連携を目指しながら展開される。

③教科内容科目群

専修免許状の教科に対応する主として教科内容学の科目群である。それぞれの教科内容に関する教材と関連テキストをめぐる読解力・分析力・情報収集能力を身につけることを目的とする。同時に、先行研究の体系的な収集と通覧を通じて、教育現場に即応した課題発見の手助けとなるような情報を獲得する。先人の優れた業績を学び、吸収しつつ、批判的能力を磨き、教科内容に関する本質を見抜いて、自分自身の考え方を打ち立てることが出来るよう、訓練する場でもある。

特別支援教育・臨床心理学コースの選択科目

特別支援教育に関する科目は、特別支援教育専修免許状取得に対応して、障害学を基礎として、知的障害、肢体不自由（運動障害）、病弱、言語障害、聴覚障害などの多様な障害に関して、教育学、心理学、精神病理学などの研究領域から高い専門性が幅広く習得できる科目を設定している。

臨床心理学に関する科目は、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の指定校認定基準に対応し、臨床心理学を基礎として、臨床心理学以外の心理学、心理学研究法、精神医学、臨床心理実践法などの研究領域から、臨床心理士養成に求められる高い専門性が幅広く習得できる科目を設定している。

（４）修士論文

１年次に取り組んだコア科目における研究テーマを、２年次においてより高度化、深化、発展させる形で、各自「課題研究」に取り組み、修士論文の研究を完成させる。研究の成果については公表をするものとし、修了にあたっては、修士論文の研究に関して審査を受け、最終試験に合格することを要件とする。

教育デザインコースにおいては、修士論文は、学校教育との関連をもった教育科学、教科教育学、教科内容学のいずれかを軸とした研究とする。特別支援教育・臨床心理学コースにおいては、特別支援教育または、臨床心理学にかかわる研究とする。

３．履修形態等

（１）履修形態

各コースにはそれぞれ**〈表１〉**に示す専門領域がある。具体的には**「４．履修基準・履修方法等」**に従って履修計画を立てること。

〈表１〉　コース・専門領域

コース	専門領域	定員
教育デザインコース	臨床教育・教育学・心理学・日本語教育・国語・英語・社会・数学・理科・技術・家政・音楽・美術・保健体育	85
特別支援教育・臨床心理学コース	特別支援教育専修	10
	臨床心理学専修	5

（２）指導教員及び関連指導教員について

①自コース又は専修に属する教員の内から１名を指導教員として選び、１年次４月の履修登録時に巻末の「指導教員・研究題目届」に記入して学務第二係に提出すること。

②指導教員と協議の上、必要に応じて関連指導教員１名を届け出ることができる。

③研究計画及び履修計画の策定、研究テーマの決定や修士論文の作成にあたって、指導教員及び関連指導教員の指導と助言を受けること。

④指導教員及び関連指導教員は、場合により変更することができる。その場合には、変更前及び変更後の指導教員の了承を得た上で、「指導教員変更届」（窓口配付様式）を学務第二係に提出すること。

【注意】以下、「指導教員」とは、関連指導教員を含む。

（３）修業年限

①標準修業年限は２年とする。

②休学期間を除いた在学可能期間は、４年とする。

③在学期間が１年を過ぎた者は、２年次生として扱う。

（４）修了要件

①履修基準に従って30単位以上修得すること。

②通算ＧＰＡ(Grade Point Average)が2.0以上であること。詳細は「４．成績の評価」参照。

③修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。ただし、「特定の課題についての研究の成果」については各コース・各専門領域または専修で扱いが異なるので確認すること。

（５）修士論文

修了年次に履修した教育・研究の分野（学校教育の分野、教科教育の分野）に関する主題で修士論文を提出し、修士論文審査委員会による最終試験（口頭試問など）で合否が決定される。

①３月修了の場合

修士論文作成に着手した学生は、指導教員の指導に従い修士論文題目を決定し、**修了年次の１１月２０日**（土日祝日の場合は直後の平日）の別に定める時間内**（厳守）**までに、巻末の「修士論文題目届」を学務第二係に提出しなければならない。「修士論文題目届」を提出しない場合、当該年度の修士論文提出は認めない。

「修士論文題目届」を提出した者は、当該年度の**１月２０日**（予定。土日祝日の場合は直後の平日）の別に定める時間内**（厳守）**に「修士論文」１部を提出すること。他に１，２００字以内の修士論文要旨及び「修士論文提出票」を提出する必要があるので、詳細は別途掲示で確認すること。

②９月修了の場合

標準修業年限を超えて在学している者は、一定の条件を満たせば、年度途中（９月３０日）に修了することができる。その場合は、「修士論文題目届」を**４月２０日**（土日祝日の場合は直後の平日）の別に定める時間内**（厳守）**までに提出し、**６月２０日**（予定。土日祝日の場合は直後の平日）の別に定める時間内**（厳守）**に「修士論文」１部を提出すること。他に１，２００字以内の修士論文要旨及び「修士論文提出票」を提出する必要があるので、詳細は別途掲示で確認すること。

４．履修基準・履修方法等

（１）履修基準

授業科目は、研究科共通科目・研究科必修科目・コース選択科目に区分される。詳細は「７．開設授業科目」参照。

修了要件を満たすためには、次の〈表２〉の最低単位数を満たし、合計３０単位以上修得する必要がある。

〈表２〉

<table>
<tr><th colspan="3">授業科目</th><th>最低単位数</th></tr>
<tr><td colspan="2">研究科共通科目（全コース・専修共通）</td><td></td><td>コア科目「教育デザイン」</td><td>４単位必修（通年）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究科必修科目</td><td colspan="2">教育デザインコース</td><td>「教育インターン」
課題研究</td><td>２単位必修
４単位必修（通年）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">特別支援教育・臨床心理学コース</td><td>特別支援教育専修</td><td>「教育インターン」科目
『特別支援教育実地指導』
『特別支援教育臨床実習』
『障害児ケース支援研究』
課題研究</td><td>１科目２単位選択必修
４単位必修（通年）</td></tr>
<tr><td>臨床心理学専修</td><td>「教育インターン」科目
『学校臨床実習』
課題研究</td><td>２単位必修
４単位必修（通年）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">コース選択科目</td><td colspan="2" rowspan="2">教育デザインコース</td><td>選択科目
教育科学科目群
教育開発科目群
教科内容科目群</td><td>２０単位選択履修【注※】
４単位以上選択履修
４単位以上選択履修
４単位以上選択履修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">特別支援教育・臨床心理学コース</td><td>特別支援教育専修</td><td>特別支援教育に関する科目</td><td>２０単位選択履修【注※※】</td></tr>
<tr><td>臨床心理学専修</td><td>臨床心理に関する科目</td><td>２０単位選択履修【注※※】</td></tr>
<tr><td colspan="4">合　　計</td><td>３０単位</td></tr>
</table>

【注※】教育デザインコースに関しては、教育科学科目群、教育開発科目群、教科内容科目群の各科目群から最低４単位以上履修し、かつ合計で２０単位取得する。

【注※※】特別支援教育専修・臨床心理学専修に関しては、それぞれ免許状・資格取得に関する定められた科目群から選択必修。

（２）履修方法

学生は原則として、所属するコースまたは専修の授業科目を履修すること。

授業は月～金の１～７時限に、および、土曜日あるいは長期休業期間には集中講義として開講される。コア科目「教育デザイン」や「教育インターン」は、科目の性質上、必ずしも大学における固定的な授業形態を取らない。

また夜間時間帯・土曜日・休業期間中にしか授業を受けられない現職教員・教育関連職従事者に対しては、指導教員および担当教員と相談の上で履修計画を立て、昼夜開講制を利用して、勤務しながら就学できるように対応する。

〈表３〉

時限	月～金曜日	土曜日・休業期間等
1	8 時 50 分～10 時 20 分	集中講義
2	10 時 30 分～12 時 00 分	
3	13 時 00 分～14 時 30 分	
4	14 時 40 分～16 時 10 分	
5	16 時 15 分～17 時 45 分	
6	17 時 50 分～19 時 20 分	
7	19 時 25 分～20 時 55 分	

（３）履修登録

授業科目を履修し単位を修得するには、別に定める履修登録期間内に大学内又は自宅等のパソコンを使用し履修登録手続きを行わなければならない。まず、本履修の手引き、授業概要、時間割表で履修方法、履修条件等を確認し履修計画を立て、パソコンで「学務情報システム」（WEB システム）に接続し、履修する科目の登録を行うこと。詳細は、別に配付する操作方法を参照すること。

①履修登録に関する注意事項

a. 履修登録を行わなかった授業科目は、原則として履修することができない。また、一度届け出た履修登録科目は、原則として変更できない。

b. 同一曜日・時限に２つ以上の授業科目を履修することはできない。

c. 履修登録期間は、春学期（４月）と秋学期（１０月）の年２回で、春学期には、春学期科目及び通年科目、秋学期には秋学期科目を履修登録する。コース選択科目のみならず、「教育デザイン」・「教育インターン」科目・「課題研究」も指定年次に忘れずに履修登録すること。

②履修登録キャンセル

履修登録完了後に履修登録科目を取り消す場合、履修登録キャンセル期間（全学統一。期間は別に掲示する。）に「学務情報システム」でキャンセルをすること。

なお、集中講義等上記とは別にキャンセル期間を定めている科目もある。詳細は掲示で確認すること。その場合は、別に定める期間内に所定の「履修登録キャンセル申請書」（窓口配付様式）に記入し、学務第二係に届け出ること。

履修登録に係る諸手続きの方法等については、掲示により通知するので、掲示板に注意すること。

（４）他コース又は他専修の授業科目の履修

学生の希望と指導教員の指導により、授業科目を幅広く履修できるように、所属コース（特別支援・臨床心理コースに当たっては、所属専修）以外の科目を、一定の範囲内で履修することができる。ただし、履修にあたっては科目担当教員の許可を得、当該学期の履修登録期間内に所定の「授業科目の振替承認申請書」（窓口配付様式）を学務第二係に提出すること。

①教育デザインコース生の場合、特別支援・臨床心理コースの**選択科目**は、同コース内２専修の通算で**８単位**を限度として修了単位とすることができる。

②特別支援・臨床心理コース生の場合、教育デザインコース及び特別支援・臨床心理コースの他専修の**選択科目**は、通算で**８単位**を限度として修了単位とすることができる。

（５）教育学研究科以外の授業科目の履修（学内）

① 学部授業の受講について

教育人間科学部の授業科目の履修を必要とする場合は、指導教員及び学部授業科目担当教員の承諾を得なければならない。この場合、履修する授業科目と修得目的に応じて次のような区分を設ける。

ａ．修得した単位を大学院修了に必要な単位とする場合……教育学研究科の教員（非常勤講師は不可）が担当する教育人間科学部の授業科目を履修し、大学院運営委員会の承認を得れば、単位数を学部の２分の１として計算し、６単位まで修了に必要な選択科目の単位とすることができる。ただし、その場合は、教員免許状または学芸員資格取得の単位とすることはできない。

ｂ．修得した単位を大学院修了に必要な単位としない場合……１年間に２０単位を限度として、教育人間科学部の授業科目（教育学研究科担当以外の教員を含む）を履修することができる。修得した単位は「増加単位」となり、教員免許状または学芸員資格取得のための単位とすることができる。

〔受講にあたっての注意事項〕

- 受講に際しては、指導教員及び授業担当教員の承諾を得なければならない。
- 当該学期の履修登録期間内に**「学部開講科目履修届」**（窓口配付様式）を学務第二係へ提出しなければならない。

② 工学府、環境情報学府、国際社会科学府および都市イノベーション学府の授業の履修について

学生の所属するコースが認める場合、工学府、環境情報学府、国際社会科学府（博士課程前期のみ）、都市イノベーション学府の授業科目は１０単位を限度として履修することができる。修得した単位は増加単位となるが、本研究科教授会の承認を得れば、上記学府及び下記（６）の単位の通算で１０単位を限度として自コースの選択科目の単位

とすることができる。

〔受講にあたっての注意事項〕

- 受講に際しては指導教員及び授業担当教員の承諾を得なければならない。
- 上記学府で受講できる授業科目は、**「講義」のみ**とする。
- 国際社会科学府の場合、次に掲げる専攻、コース又はプログラムにおいて設置する科目は全て履修できない。
  a. 経済学専攻英語による留学生特別コース及び英語 EP　　b. 経営学専攻社会人専修コース
  c. 国際経済法学専攻の特別講義、外国語関連科目
- 当該学期の履修登録期間内に**「単位互換承認申請書」**（窓口配付様式）を学務第二係へ提出しなければならない。

（６）教育学研究科以外の授業科目の履修（学外）

「神奈川県内の大学間における大学院学術交流」参加大学院の授業科目を、４単位を限度として履修することができる。修得した単位は増加単位となるが、本研究科教授会の承認を得れば、上記及び上記（５）の単位の通算で１０単位を限度として自コースの選択科目の単位とすることができる。

〔受講にあたっての注意事項〕

- 詳細については、学務部教務課大学教育係（045-339-3107）に直接問い合わせること。

５．成績の評価

学業成績は、試験の成績、レポートなどを考慮して決定される。

GPA(Grade Point Average)は履修した授業科目のうち、修了に関わる授業科目の成績に GP(Grade Point)を与え、当該科目の単位数を乗じた総和を、履修登録した授業科目の総単位数で除して算出される。

なお、GPA2.0 以上が修了要件である。

＜表４＞

成績表記	Grade Point	評価点	合格・不合格
秀	４．５	100～90	合格
優	4	89～80	
良	3	79～70	
可	2	69～60	
不可	0	59～0	不合格

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{総和（ＧＰ×単位数）}}{\text{履修登録単位数}}$$

ただし、下記の科目は GPA に算入されない。

①教育人間科学部開講の科目で、大学院修了単位に算入しない科目（学部科目のうち単位数を半減しない科目）

②入学前既修得単位として認定された科目

③他大学大学院開講科目で単位認定された科目

６．諸資格・副専攻プログラム

（１）教育職員免許状（専修免許状）

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校(養護学校)及び養護教諭の一種免許状を所有する者で当該専修免許状の取得を希望する者は、本研究科において当該免許の種類と対応する「教科または教職に関する科目」を２４単位以上修得することにより、修了時に、所有する一種免許状に対応する「専修免許状」の取得資格を得ることができる。免許関連科目については『**授業概要**』で確認すること。

【注 １】特別支援学校教諭専修免許状を取得するには、「特別支援教育に関する科目」を２４単位以上履修する必要がある。

【注 ２】特別支援教育専修の学生で、養護学校教諭一種免許状もしくは特別支援学校教諭一種免許状の所有者が取得可能な特別支援学校教諭専修免許状に定められる教育の領域は「知的障害者に関する教育の領域」、「肢体不自由者に関する教育の領域」、「病弱者に関する教育の領域」である。

【注 ３】３月修了の場合、修了年次の所定の時期（目安は６、７月）に教育職員免許状一括申請に申し込みをすると、修了時に学位記等とあわせて専修免許状を交付する。申請条件・時期、必要書類等は掲示で通知するので、必ず掲示板を確認すること。一括申請の対象外となる者については、都道府県教育委員会に個人で申請すること。

〈表５〉

コース	取得できる免許状と教科	
教育デザインコース	小学校教諭専修免許状	
	中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語
	高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、家庭、工業、英語
	養護教諭専修免許状	
特別支援教育・臨床心理学コース（特別支援教育専修のみ）	特別支援学校教諭専修免許状	（「知的障害者に関する教育の領域」、「肢体不自由者に関する教育の領域」、「病弱者に関する教育の領域」）

（２）臨床心理学専修で取得できる資格

臨床心理学専修は、財団法人日本臨床心理士資格認定協会より、平成１５年度から臨床心理士大学院指定制度による第１種指定大学院の指定を受けているため、所定条件を充足した修了生は修了後直近に実施される資格審査を受験することができる。所定条件等詳細は当該専修に確認すること。

（３）副専攻プログラム（中核的理科教員養成プログラム）

本学が開設する副専攻プログラムは、知識基盤社会が求める総合性・学際性への対応、また学生からのニーズへの対応として、自らの所属する専攻（課程・学科）以外の分野を系統的に学習する機会を設けたもので、所定の要件を満たした者には、修了証が発行され、成績証明書にも修了した副専攻名が記される。

副専攻プログラムは複数あるが、中でも教育に関連するものとして、中核的理科教員養成プログラムがある。

本プログラムは、高い教育能力と理科の素養を共に持ち、小・中学校での理科教育の中核として活躍できる専門性の高い教員（コア・サイエンス・ティーチャー：CST）の養成を目的とした教育プログラムである。また、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市の教育委員会との連携により、学校での実践プログラムを実施する。

本プログラムの詳細及び他プログラムについては、本学 HP で確認すること。

（４）その他

「４．履修基準・履修方法等」（５）①の b の基準に沿って学部授業を履修し、教育職員免許状（一種免許状）取得のための単位に充てることができる。ただし、指導教員と相談の上、大学院の授業・研究に支障をきたさない範囲で履修すること。

また、一種免許状の取得は正規課程として位置づけられているものではなく、本研究科として取得を保証するものではない。大学院と学部授業の時間割の重複、学部授業の履修には指導教員と当該授業担当教員の承諾が必要なこと、履修制限、一種免許状取得に係る不足単位数が本研究科で履修できる学部授業の単位数を超えている、取得希望の免許・教科の科目が学部で開講されていないなどにより、希望の一種免許状を取得できない場合がある。十分注意し、個人の責任において履修すること。

7．開設授業科目

●研究科共通科目（全コース・専修共通）

授業科目	単位数
教育デザイン	4

●研究科必修科目（教育デザインコース）

授業科目	単位数
教育インターン	2
課題研究	4

●教育デザインコース選択科目「教育科学科目群」

授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
教育哲学講義Ⅰ	2	生涯教育学講義Ⅰ	2	教育実践学演習Ⅰ	2
教育哲学講義Ⅱ	2	生涯教育学講義Ⅱ	2	教育実践学演習Ⅱ	2
教育人間学演習Ⅰ	2	多文化教育論演習Ⅰ	2	授業デザイン論講義Ⅰ	2
教育人間学演習Ⅱ	2	多文化教育論演習Ⅱ	2	授業デザイン論講義Ⅱ	2
教育社会学講義Ⅰ	2	カリキュラム論講義Ⅰ	2	授業デザイン演習Ⅰ	2
教育社会学講義Ⅱ	2	カリキュラム論講義Ⅱ	2	授業デザイン演習Ⅱ	2
教育社会学演習Ⅰ	2	認知発達心理学講義Ⅰ	2	臨床生徒指導論講義Ⅰ	2
教育社会学演習Ⅱ	2	認知発達心理学講義Ⅱ	2	臨床生徒指導論講義Ⅱ	2
教育史講義Ⅰ	2	認知発達心理学演習Ⅰ	2	臨床生徒指導論演習Ⅰ	2
教育史講義Ⅱ	2	認知発達心理学演習Ⅱ	2	臨床生徒指導論演習Ⅱ	2
教師教育論演習Ⅰ	2	学習心理学講義Ⅰ	2	情報教育論講義Ⅰ	2
教師教育論演習Ⅱ	2	学習心理学講義Ⅱ	2	情報教育論講義Ⅱ	2
教育行財政学講義Ⅰ	2	学習心理学演習Ⅰ	2	情報教育論演習Ⅰ	2
教育行財政学講義Ⅱ	2	学習心理学演習Ⅱ	2	情報教育論演習Ⅱ	2
教育政策論演習Ⅰ	2	教育臨床学講義Ⅰ	2	教育経営論講義Ⅰ	2
教育政策論演習Ⅱ	2	教育臨床学講義Ⅱ	2	教育経営論講義Ⅱ	2
教育問題論講義Ⅰ	2	教育臨床学演習Ⅰ	2	教育経営論演習Ⅰ	2
教育問題論講義Ⅱ	2	教育臨床学演習Ⅱ	2	教育経営論演習Ⅱ	2
教育問題論演習Ⅰ	2	教育実践学講義Ⅰ	2		
教育問題論演習Ⅱ	2	教育実践学講義Ⅱ	2		

●教育デザインコース選択科目「教育開発科目群」

授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
国語教授法講義Ⅰ	2	英語教育学講義ＡⅠ	2	社会科・地理歴史科カリキュラム論演習	2
国語教授法講義Ⅱ	2	英語教育学講義ＡⅡ	2		
国語教授法演習Ⅰ	2	英語教育学講義ＢⅠ	2	社会科・公民科カリキュラム論演習	2
国語教授法演習Ⅱ	2	英語教育学講義ＢⅡ	2		
国語カリキュラム論講義Ⅰ	2	英語教育学演習ＡⅠ	2	理科教授法講義Ⅰ	2
		英語教育学演習ＡⅡ	2	理科教授法講義Ⅱ	2
国語カリキュラム論講義Ⅱ	2	英語教育学演習ＢⅠ	2	理科教授法演習Ⅰ	2
		英語教育学演習ＢⅡ	2	理科教授法演習Ⅱ	2
国語カリキュラム論演習Ⅰ	2	社会科・地理歴史科教授法講義	2	理科カリキュラム論講義Ⅰ	2
国語カリキュラム論演習Ⅱ	2	社会科・公民科教授法講義	2	理科カリキュラム論講義Ⅱ	2
書写書道講義Ⅰ	2	社会科・地理歴史科教授法演習	2	理科カリキュラム論演習Ⅰ	2
書写書道講義Ⅱ	2				
書写書道演習Ⅰ	2	社会科・公民科教授法演習	2	理科カリキュラム論演習Ⅱ	2
書写書道演習Ⅱ	2				
第二言語習得論講義Ⅰ	2	社会科・地理歴史科カリキュラム論講義	2	算数・数学科教授法講義Ⅰ	2
第二言語習得論講義Ⅱ	2				
第二言語習得論演習Ⅰ	2	社会科・公民科カリキュラム論講義	2	算数・数学科教授法講義Ⅱ	2
第二言語習得論演習Ⅱ	2				

授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
算数・数学科教授法演習Ⅰ	2	家庭科カリキュラム論演習Ⅱ	2	美術カリキュラム論講義Ⅰ	2
算数・数学科教授法演習Ⅱ	2	保健体育科教育学講義ＡⅠ	2	美術カリキュラム論講義Ⅱ	2
算数・数学カリキュラム論講義Ⅰ	2	保健体育科教育学講義ＡⅡ	2	美術カリキュラム論演習Ⅰ	2
算数・数学カリキュラム論講義Ⅱ	2	保健体育科教育学演習ＡⅠ	2	美術カリキュラム論演習Ⅱ	2
算数・数学カリキュラム論演習Ⅰ	2	保健体育科教育学演習ＡⅡ	2	生活科・総合学習学演習Ⅰ	2
算数・数学カリキュラム論演習Ⅱ	2	保健体育科教育学講義ＢⅠ	2	生活科・総合学習学演習Ⅱ	2
算数・数学教育研究方法論講義Ⅰ	2	保健体育科教育学講義ＢⅡ	2	消費者教育論講義	2
算数・数学教育研究方法論講義Ⅱ	2	保健体育科教育学演習ＢⅠ	2	消費者教育論演習	2
算数・数学教育研究方法論演習Ⅰ	2	保健体育科教育学演習ＢⅡ	2	日本語教授法講義Ⅰ	2
算数・数学教育研究方法論演習Ⅱ	2	音楽教授法講義Ⅰ	2	日本語教授法講義Ⅱ	2
技術科教授法講義	2	音楽教授法講義Ⅱ	2	日本語教授法演習Ⅰ	2
技術科教授法演習Ⅰ	2	音楽教授法演習Ⅰ	2	日本語教授法演習Ⅱ	2
技術科教授法演習Ⅱ	2	音楽教授法演習Ⅱ	2	日本語教育研究方法論講義Ⅰ	2
技術科カリキュラム論講義	2	音楽カリキュラム論講義Ⅰ	2	日本語教育研究方法論講義Ⅱ	2
技術科カリキュラム論演習Ⅰ	2	音楽カリキュラム論講義Ⅱ	2	日本語教育研究方法論演習Ⅰ	2
技術科カリキュラム論演習Ⅱ	2	音楽カリキュラム論演習Ⅰ	2	日本語教育研究方法論演習Ⅱ	2
家庭科教授法講義Ⅰ	2	音楽カリキュラム論演習Ⅱ	2	理科教授法講義Ⅲ	2
家庭科教授法講義Ⅱ	2	美術教授法講義Ⅰ	2	理科教授法演習Ⅲ	2
家庭科教授法演習Ⅰ	2	美術教授法講義Ⅱ	2	理科カリキュラム論講義Ⅲ	2
家庭科教授法演習Ⅱ	2	美術教授法演習Ⅰ	2	理科カリキュラム論演習Ⅲ	2
家庭科カリキュラム論講義Ⅰ	2	美術教授法演習Ⅱ	2		
家庭科カリキュラム論講義Ⅱ	2				
家庭科カリキュラム論演習Ⅰ	2				

●教育デザインコース選択科目「教科内容科目群」

授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
中国古典文学講義Ⅰ	2	英語学演習Ⅱ	2	日本語教育学講義Ⅰ	2
中国古典文学講義Ⅱ	2	英米文学講義ＡⅠ	2	日本語教育学講義Ⅱ	2
中国古典文学演習Ⅰ	2	英米文学講義ＡⅡ	2	日本語教育学演習Ⅰ	2
中国古典文学演習Ⅱ	2	英米文学講義ＢⅠ	2	日本語教育学演習Ⅱ	2
日本古典文学講義Ⅰ	2	英米文学講義ＢⅡ	2	自然地理学講義Ⅰ	2
日本古典文学講義Ⅱ	2	英米文学演習ＡⅠ	2	自然地理学講義Ⅱ	2
日本古典文学演習Ⅰ	2	英米文学演習ＡⅡ	2	自然地理学演習Ⅰ	2
日本古典文学演習Ⅱ	2	英米文学演習ＢⅠ	2	自然地理学演習Ⅱ	2
日本近代文学講義Ⅰ	2	英米文学演習ＢⅡ	2	人文地理学講義Ⅰ	2
日本近代文学講義Ⅱ	2	比較言語学講義Ⅰ	2	人文地理学講義Ⅱ	2
日本近代文学演習Ⅰ	2	比較言語学講義Ⅱ	2	人文地理学演習Ⅰ	2
日本近代文学演習Ⅱ	2	比較言語学演習Ⅰ	2	人文地理学演習Ⅱ	2
日本語史講義Ⅰ	2	比較言語学演習Ⅱ	2	地理学野外実習Ⅰ	2
日本語史講義Ⅱ	2	日本語学講義Ⅰ	2	地理学野外実習Ⅱ	2
日本語史演習Ⅰ	2	日本語学講義Ⅱ	2	歴史学講義Ａ（日本前近代史）Ⅰ	2
日本語史演習Ⅱ	2	日本語学演習Ⅰ	2	歴史学講義Ａ（日本前近代史）Ⅱ	2
英語学講義Ⅰ	2	日本語学演習Ⅱ	2		
英語学講義Ⅱ	2	日本語教育総合演習Ⅰ	2		
英語学演習Ⅰ	2	日本語教育総合演習Ⅱ	2		

授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
歴史学演習Ａ（日本前近代史）Ⅰ	2	植物学演習	2	体育心理学演習Ⅰ	2
歴史学演習Ａ（日本前近代史）Ⅱ	2	地質学講義	2	体育心理学演習Ⅱ	2
歴史学講義Ｂ（日本近現代史）Ⅰ	2	地質学演習	2	体育社会学講義Ⅰ	2
歴史学講義Ｂ（日本近現代史）Ⅱ	2	気象学講義	2	体育社会学講義Ⅱ	2
歴史学演習Ｂ（日本近現代史）Ⅰ	2	気象学演習	2	体育社会学演習Ⅰ	2
歴史学演習Ｂ（日本近現代史）Ⅱ	2	自然史科学講義	2	体育社会学演習Ⅱ	2
歴史学講義Ｃ（外国史）Ⅰ	2	自然史科学演習	2	運動学講義Ａ（体力科学）Ⅰ	2
歴史学講義Ｃ（外国史）Ⅱ	2	代数学講義	2	運動学講義Ａ（体力科学）Ⅱ	2
歴史学演習Ｃ（外国史）Ⅰ	2	代数学演習	2	運動学演習Ａ（体力科学）Ⅰ	2
歴史学演習Ｃ（外国史）Ⅱ	2	幾何学講義	2	運動学演習Ａ（体力科学）Ⅱ	2
歴史学講義Ｄ（歴史認識論）Ⅰ	2	幾何学演習	2	運動学講義Ｂ（コーチング学）Ⅰ	2
歴史学講義Ｄ（歴史認識論）Ⅱ	2	解析学講義	2	運動学講義Ｂ（コーチング学）Ⅱ	2
歴史学演習Ｄ（歴史認識論）Ⅰ	2	解析学演習	2	運動学演習Ｂ（コーチング学）Ⅰ	2
歴史学演習Ｄ（歴史認識論）Ⅱ	2	応用数学講義	2	運動学演習Ｂ（コーチング学）Ⅱ	2
倫理学講義Ⅰ	2	応用数学演習	2	運動生理学講義Ⅰ	2
倫理学講義Ⅱ	2	情報科学講義	2	運動生理学講義Ⅱ	2
倫理学演習Ⅰ	2	情報科学演習	2	運動生理学演習Ⅰ	2
倫理学演習Ⅱ	2	木材加工学講義	2	運動生理学演習Ⅱ	2
社会思想論講義Ⅰ	2	木材加工学演習	2	身体適応学講義Ⅰ	2
社会思想論講義Ⅱ	2	金属加工学講義	2	身体適応学講義Ⅱ	2
社会思想論演習Ⅰ	2	金属加工学演習	2	身体適応学演習Ⅰ	2
社会思想論演習Ⅱ	2	情報計測学講義	2	身体適応学演習Ⅱ	2
現代憲法論講義	2	情報計測学演習	2	学校保健学講義Ⅰ	2
現代憲法論演習	2	家族関係学講義	2	学校保健学講義Ⅱ	2
現代人権論講義	2	家族関係学演習	2	学校保健学演習Ⅰ	2
現代人権論演習	2	被服学講義	2	学校保健学演習Ⅱ	2
経済学講義Ⅰ	2	被服学演習	2	声楽実践論講義Ⅰ	2
経済学講義Ⅱ	2	食物学講義	2	声楽実践論講義Ⅱ	2
経済学演習Ⅰ	2	食物学演習	2	声楽実践論演習Ⅰ	2
経済学演習Ⅱ	2	食教育論講義	2	声楽実践論演習Ⅱ	2
物性物理学講義	2	食教育論演習	2	器楽（ピアノ）実践論講義Ⅰ	2
物性物理学演習	2	住居学講義	2	器楽（ピアノ）実践論講義Ⅱ	2
現代物理学講義	2	住居学演習	2	器楽（ピアノ）実践論演習Ⅰ	2
現代物理学演習	2	児童学講義	2	器楽（ピアノ）実践論演習Ⅱ	2
無機化学講義	2	児童学演習	2	作曲実践論講義Ⅰ	2
無機化学演習	2	生活経済環境論講義	2	作曲実践論講義Ⅱ	2
有機化学講義	2	生活経済環境論演習	2	作曲実践論演習Ⅰ	2
有機化学演習	2	保健体育内容学講義Ａ（舞踊学）Ⅰ	2	作曲実践論演習Ⅱ	2
動物学講義	2	保健体育内容学講義Ａ（舞踊学）Ⅱ	2	音楽表現実践論講義Ⅰ	2
動物学演習	2	保健体育内容学演習Ａ（舞踊学）Ⅰ	2	音楽表現実践論講義Ⅱ	2
植物学講義	2	保健体育内容学演習Ａ（舞踊学）Ⅱ	2	音楽表現実践論演習Ⅰ	2
		保健体育内容学講義Ｂ（武道学）Ⅰ	2	音楽表現実践論演習Ⅱ	2
		保健体育内容学講義Ｂ（武道学）Ⅱ	2	絵画実践論講義Ⅰ	2
		保健体育内容学演習Ｂ（武道学）Ⅰ	2		
		保健体育内容学演習Ｂ（武道学）Ⅱ	2		
		体育心理学講義Ⅰ	2		
		体育心理学講義Ⅱ	2		

授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
絵画実践論講義Ⅱ	2	デザイン実践論講義Ⅱ	2	工芸実践論講義Ⅱ	2
絵画実践論演習Ⅰ	2	デザイン実践論演習Ⅰ	2	工芸実践論演習Ⅰ	2
絵画実践論演習Ⅱ	2	デザイン実践論演習Ⅱ	2	工芸実践論演習Ⅱ	2
彫刻実践論講義Ⅰ	2	美術表現実践論講義Ⅰ	2	英米文化講義Ⅰ	2
彫刻実践論講義Ⅱ	2	美術表現実践論講義Ⅱ	2	英米文化講義Ⅱ	2
彫刻実践論演習Ⅰ	2	美術表現実践論演習Ⅰ	2	英米文化演習Ⅰ	2
彫刻実践論演習Ⅱ	2	美術表現実践論演習Ⅱ	2	英米文化演習Ⅱ	2
デザイン実践論講義Ⅰ	2	工芸実践論講義Ⅰ	2		

●研究科必修科目（特別支援教育・臨床心理学コース（特別支援教育専修））「特別支援教育に関する科目」

授業科目	単位数
特別支援教育実地指導	2
特別支援教育臨床実習	2
障害児ケース支援研究	2
課題研究	4

●特別支援教育・臨床心理学コース選択科目「特別支援教育に関する科目」

授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
障害学講義Ⅰ	2	知的障害教育学演習Ⅱ	2	病弱教育学演習Ⅰ	2
障害学講義Ⅱ	2	知的障害心理学講義Ⅰ	2	病弱教育学演習Ⅱ	2
障害学演習Ⅰ	2	知的障害心理学講義Ⅱ	2	言語障害教育学講義Ⅰ	2
障害学演習Ⅱ	2	知的障害心理学演習Ⅰ	2	言語障害教育学講義Ⅱ	2
障害児精神病理学講義Ⅰ	2	知的障害心理学演習Ⅱ	2	言語障害教育学演習Ⅰ	2
障害児精神病理学講義Ⅱ	2	運動障害心理学講義Ⅰ	2	言語障害教育学演習Ⅱ	2
障害児精神病理学演習Ⅰ	2	運動障害心理学講義Ⅱ	2	聴覚障害心理学講義Ⅰ	2
障害児精神病理学演習Ⅱ	2	運動障害心理学演習Ⅰ	2	聴覚障害心理学講義Ⅱ	2
知的障害教育学講義Ⅰ	2	運動障害心理学演習Ⅱ	2	聴覚障害心理学演習Ⅰ	2
知的障害教育学講義Ⅱ	2	病弱教育学講義Ⅰ	2	聴覚障害心理学演習Ⅱ	2
知的障害教育学演習Ⅰ	2	病弱教育学講義Ⅱ	2		

●研究科必修科目（特別支援教育・臨床心理学コース（臨床心理学専修））

授業科目	単位数
学校臨床実習	2
課題研究	4

●特別支援教育・臨床心理学コース選択科目「臨床心理に関する科目」

授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
臨床心理面接特論Ⅰ	2	投影法特論Ⅱ	2	教育心理学特論	2
臨床心理面接特論Ⅱ	2	臨床心理関連行政論	2	心理学研究法特論	2
臨床心理学特論Ⅰ	2	社会心理学特論	2	心理統計法特論	2
臨床心理学特論Ⅱ	2	人間関係特論	2	臨床心理査定演習Ⅰ	2
心理療法特論	2	家族心理学特論	2	臨床心理査定演習Ⅱ	2
精神医学特論	2	犯罪心理学特論	2	臨床心理基礎実習Ⅰ	2
心身医学特論	2	学習心理学特論	2	臨床心理基礎実習Ⅱ	2
精神薬理学特論	2	認知心理学特論	2	臨床心理実習	4
学校臨床心理学特論	2	グループ・アプローチ特論	2		
投影法特論Ⅰ	2	発達心理学特論	2		

８．教員紹介

次頁以降、教育学研究科担当教員を紹介する。表の見方は下記のとおり。なお、平成２６年度末で退職する予定の教員については、教員名の左に★印を付している。

教員氏名	（教員名）	（英文名）
専門領域	（教員が所属する専門領域名）	
担当科目	（教員が2年間で担当する全授業科目名）	
専　　門	（教員の専門）	
私の教育デザイン		
① ② ③	（所属専門領域ならびに対応できる教育デザインに各自の専門がどのように繋がるのか等、教員のアピールを複数項目で示している）	

専門領域

臨床教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
教育学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
心理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
日本語教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
社会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
数学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
理科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
技術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
家政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
音楽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
美術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
保健体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁
特別支援教育専修・・・・・・・・・ 頁
臨床心理学専修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 頁

教員氏名　犬塚　文雄　　Inuzuka Fumio
専門領域　臨床教育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，臨床生徒指導論講義Ⅰ/Ⅱ，臨床生徒指導論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　生徒指導、教育相談、特別活動、学級経営
私の教育デザイン
① 教育臨床の視点そのものに関する理念的研究：教育実践学としての教育臨床の構築
② 教育臨床の視点から、子どもたちの今日的状況と背景要因の究明分析―アセスメント法の共同開発〔YPアセスメントシート〕
③ 教育臨床の視点から、子どもたちの問題状況に対する個別・グループ・チーム支援法の共同開発〔子どもの社会的スキル横浜プログラム〕

教員氏名　大島　聡　　Oshima Akira
専門領域　臨床教育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，情報教育論講義Ⅰ/Ⅱ，情報教育論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育工学、情報教育論
私の教育デザイン
① 教育とメディアの関連の考察
（教育学、社会学、哲学、心理学）
② 授業研究
（教育方法学、教育工学）
③ メディアを活用する授業デザイン
（教育方法学、教育工学）

教員氏名　髙木　展郎　　Takagi Nobuo
専門領域　臨床教育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，教育実践学講義Ⅰ/Ⅱ，教育実践学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育方法学、学習評価、授業研究、国語科教育学
私の教育デザイン
① 学校教育の多様な今日的な課題を捉え、その意味や必要性、これからの教育に向けての課題を、学校教育という事実を捉えることによって明らかにする。
② 学校の授業を対象として、その全体を研究対象とするため、様々な学校教育の複雑な要素を分離してその要因を考察するのと同時に、それぞれの要素がどのように関わりながら、複層的かつ重層的に学校教育が営まれているのかを、多面的・多角的に考察する。
③ 研究方法としては、質的な研究を基軸にしながら、事例研究やアクションリサーチによる具体的な授業を対象とした研究を行う。また、次代の教育をアセスメント出来る教育内容や教育方法についても、新たな手法を開発しつつ、教育という事実をいかに意味づけるかを行っていく。

教員氏名　野中　陽一　　Nonaka Yoichi
専門領域　臨床教育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，授業デザイン論講義Ⅰ/Ⅱ，授業デザイン演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育工学
私の教育デザイン
① 学習指導におけるICT活用、情報教育に関する授業研究情報活用能力の育成　実物投影機、電子黒板等のICT機器の活用
デジタル教科書等の教材コンテンツの活用　学校、教室のICT環境の在り方
（教育臨床、教育学、教科教育学等）
② 教育の情報化に関わる政策に関する研究
教育委員会、学校の情報化推進体制
学校の情報化の評価
（教育臨床、教育学等）
③ 英国における教育の情報化に関する研究
教科ICTのカリキュラム
教育の情報化のための条件整備
（教育臨床、教育学等）

教員氏名　米澤　利明　　Yonezawa Toshiaki
専門領域　臨床教育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，教育経営論講義Ⅰ/Ⅱ，教育経営論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育経営、教育方法
私の教育デザイン
① 有効な教育インターンの在り方の研究
学校現場で求められる、不確かな状況の中で自ら問題を発見し解決策を導き出す独創的な教育デザイン力育成のための有効なインターンシップの在り方の研究
② 新たな教員養成カリキュラムの普及に係る実践的な研究
学校現場に即した高度な教育実践力を有する教員を養成するための改定された教員養成カリキュラムの普及に係る条件、環境等の要因に関する実践的な研究
ア．附属学校との連携をどう強化するか
イ．地域の教育委員会や公立学校とどう協同するか等
③ 授業改善のための組織的な運営に係る研究
小・中・高等の学校現場や教育研究機関等と連携し、カリキュラム・マネジメントや指導方法等の工夫・開発 等による授業改善のための組織的運営に関する研究

教員氏名　新井　秀明　　Arai Hideaki
専門領域　教育学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，教育行財政学講義Ⅰ/Ⅱ，教育政策論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育行財政学、教育政策論、教育法学
私の教育デザイン
① 現代の教育政策分析：
＊国と自治体の教育政策分析と改革課題の検討
＊教育政策研究方法・分析手法の探求
（あらゆる領域）
② 教育法制度とその運用のあり方の探求
＊教育の機会均等と教育費・教育財政
＊教員免許・養成・研修・評価、など
（あらゆる領域）
③ 新たな学校づくりの探求
＊学校改革論議の検討
＊開かれた学校づくりの制度設計
（あらゆる領域）

教員氏名　大戸　安弘　　Ohto Yasuhiro
専門領域　教育学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，教育史講義Ⅰ/Ⅱ，教師教育論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　日本教育史
私の教育デザイン
① 日本におけるリテラシーの歴史的形成過程。
読み書きを出発点としたリテラシーという概念の拡張。
リテラシーにおける前近代と近代。
（教育学、歴史的位相のあらゆる領域）
② 近世・近代移行期における「学び」の転換。
道具としての文字使用。
身分・階層の象徴としての教養・
知識・世界観の内容。
近世的「学び」と近代的「学び」の相克。
（教育学、歴史的位相のあらゆる領域）
③ 伝統社会における識字力の形成と社会変動。
民衆レベルの識字力分布状況。
民衆の識字力と社会変動。
（教育学、歴史的位相のあらゆる領域）

教員氏名　金馬　国晴　　Kimma Kuniharu
専門領域　教育学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，カリキュラム論講義Ⅰ/Ⅱ，生活科・総合学習学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　担当科目の他にワークショップ、ファシリテーション
私の教育デザイン
① 生活科・総合的な学習の質的研究。参観・参加と授業研究、コーディネート等の活動から指導案・単元案・年間指導計画へ・・ただし、マニュアル的にでなく、諸学問を活用して哲学・思想的に思考し、かつ臨機応変・縦横無尽にデザインし続ける。（臨床教育、心理学、社会科ほか教科）
② 参画型・ワークショップ型の学習・授業・講義・カリキュラムの実践的開発・ 研究、 教員研修のプロジェクト・・［成果］ バングラデシュに関するフォトランゲージ・ピース並べワーク（NGO）、日常生活にコアを見つけ、 まとまりをつけるワーク（独自）、FD（大学教育改善）関係の研修ワーク（学内担当）、書育のワークシート集・教師用書（日本筆記具工業会）。（臨床教育、心理学、社会科ほか各教科）
③ 戦時下・ 戦後日本の教育課程・ カリキュラムの収集・研究と活用・・各校の研究紀要・カリキュラム冊子・指導案集の発掘・整理・分析と、現在への活用とその方法論。（心理学、各教科）
以上でのキーワード：習得–活用–探究

教員氏名　新谷　康浩　　Shintani Yasuhiro
専門領域　教育学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，教育社会学講義Ⅰ/Ⅱ，教育社会学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育社会学
私の教育デザイン
教育社会学とは、思い込みや「常識」といわれて無条件に受け入れられている教育幻想に対し、自分勝手な処方箋による教育妄想（ある人は教育デザインと呼ぶかもしれないが）がどのように作成されていくのか、冷静にこの現象を捉えようとします。社会学的に捉えることとは複眼的にものごとを見ることでもありますが、それによって一見すると教育の迷走とみられる現象が、さまざまな立場の交錯の結果うまれたものとして捉えなおすことができます。

教員氏名　西村　隆男　　Nishimura Takao
専門領域　教育学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，消費者教育論講義，消費者教育論演習，課題研究
専　　門　消費者教育、金融教育
私の教育デザイン
① 学校および地域における消費者教育：児童・生徒の消費者学習に資する教材開発や教員研修プログラムの検討などを行う。また、生涯学習として地域住民への消費者教育の推進、定着の方法を検討する。
② 学校および地域における金融教育：児童・生徒の金融学習（ファイナンシャルリテラシー）に資する教材開発や教員研修プログラムの検討などを行う。また、生涯学習として地域住民への金融教育の推進、定着の方法を検討する。
③ 海外消費者教育研究：欧米、アジア諸国の消費者教育の現状（教材、研修システム等）の研究や、OECDの消費者（市民）教育定着に向けた諸施策に関する検討などを行う。
（関連領域：社会科教育、家政教育など）
（著書：「子どもとマスターする46のお金の知識」「日本の消費者教育」「新消費者教育Q&A」など）

教員氏名　藤井　佳世　　Fujii Kayo
専門領域　教育学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，教育哲学講義Ⅰ/Ⅱ，教育哲学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育哲学、教育人間学
私の教育デザイン
① コミュニケーションと承認に基づく人間形成論の構築：ハーバーマスとホネットの思想を手がかりにした人間形成論の構築、社会化による個性化という思想にみられるドイツにおける相互主観性思想とアメリカにおけるプラグマティズム思想との交差の解読を通した自己形成の理論的研究（自己形成の思想史）
② ドイツの教育人間学：近現代における教育人間学の思想的研究
③ 討議倫理学と道徳教育：討議倫理学の考察を通した道徳教育の基礎理論の構築

教員氏名　松葉口　玲子　　Matsubaguchi Reiko
専門領域　教育学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，生活経済環境論講義，生活経済環境論演習，家庭科カリキュラム論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　生活環境教育
私の教育デザイン
① 生活に根ざした環境教育についての検討
ESD（持続発展教育）を視野に入れつつ、生活に根ざした環境教育を展開するうえでの理念と実践について考究する。（あらゆる領域）
② ジェンダー視点に基づく生活様式分析と教育への応用の検討
政府統計はじめ各種統計から生活様式の特徴をジェンダー視点を導入し分析することによって、現代社会の現状と課題を明らかにするとともに、教育との関連を検討する。（あらゆる領域）
③ 内発的発展の事例研究
生活資源を利用した地域の内発的発展の事例を、環境教育の視点から検討する。（あらゆる領域）

教員氏名　矢野　泉　　Yano Izumi
専門領域　教育学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，生涯教育学講義Ⅰ/Ⅱ，多文化教育論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育学、社会臨床学
私の教育デザイン
① 生涯にわたる多文化教育環境を、エピソード記述法、ライフストーリー法、ナラテイヴ・アプローチを用いて、説明すること。
② 自己責任、効率性、スピードが求められる教育環境において、プロメテウス的人間と適度な距離を置き、エピメテウス的人間が生きられるソーシャル・キャピタル形成支援を行い、生きづらさの解消に少しでも貢献する学習社会システムの構築に寄与すること。
③ 文化的境界を越えて移動する市民として支援する教育システムを、思想、理論を用いて構想すること。移動する市民の学習プログラム、カリキュラムを立案すること。移動する市民の学習支援、まちづくりや文化活動を行うこと。

教員氏名　渡部　眞　　Watabe Makoto
専門領域　教育学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，教育問題論講義Ⅰ/Ⅱ，教育問題論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育社会学、青年期の社会学、犯罪社会学
私の教育デザイン
教育問題、青少年問題などを社会学的に考察するには、どのような方法をとったらよいのかについて検討したいと思っています。なお、最近の私の考え方については、以下の２冊の本に詳しく述べてあります。
『私説・教育社会学』(2010年、世界思想社)、
『現代青少年の社会学』(2006年、世界思想社)。

教員氏名　有元　典文　　Arimoto Norifumi
専門領域　心理学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，学習心理学講義Ⅰ/Ⅱ，学習心理学演習Ⅰ/Ⅱ，学習心理学特論，心理学研究法特論，課題研究
専　　門　学習心理学、学習環境のデザイン
私の教育デザイン
① 学習環境デザインの観点からの授業支援（**動機つけます！**）
公立小中学校での教師と共同での音楽科授業の改善
公立高校での保健教室の立案と実施
② 教育実習における省察ツール開発と指導（**実習手伝います！**）
教育実習指導の支援
看護実習指導者の支援
［成果物：教育実践力を形成するための「実践の省察ツール」開発の萌芽的研究」，2010］
③ 状況的学習論の視点からの授業記録と分析・助言（**授業分析します！**）
公立中学校における研究開発グループと共同での授業デザイン

教員氏名　★福田　幸男　　Fukuda Sachio
専門領域　心理学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，認知発達心理学講義Ⅰ/Ⅱ，認知発達心理学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　実験心理学、認知発達
私の教育デザイン
① 児童生徒の認知発達を踏まえた効果的な学習指導の在り方を教育現場での実践及び研究成果に基づいて検討する。(心理学、教育学)
② 児童生徒の学力の調査分析および学力の向上に向けた分析結果の活用の方策を検討する。
(心理学、教育学)
③ 児童生徒をめぐる情報環境の変化と、求められる認知特性との関係を横断的にさらに縦断的に検討する。(心理学)

教員氏名　堀井　俊章　　Horii Toshiaki
専門領域　心理学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，教育臨床学講義Ⅰ/Ⅱ，教育臨床学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　学生相談、教育臨床心理学
私の教育デザイン
① 大学生における心理的問題（課題）の理解
・大学生の不登校傾向・対人恐怖心性及び人間的成長
② 学生相談（大学生を対象としたカウンセリング）の実践
・心理的問題（課題）をもつ大学生への心理的援助
③ 大学生による自己分析の支援
・心理テストを活用したパーソナリティの理解
（心理学、臨床心理学）

教員氏名　小川　誉子美　　Ogawa Yoshimi
専門領域　日本語教育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，日本語教育学講義Ⅰ/Ⅱ，日本語教育学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　日本語学、日本語教育史、国際理解
私の教育デザイン
① 日本語教育における文法指導
第二言語としての文法教育と教材開発に関する研究
（日本語学・日本語教育学との連携）
② 日本語教育史・日本留学史
日本における非母国語話者による日本語学習・日本語研究
諸外国の日本語学習史（教科書・教授法・学習方法についての史的研究）
③ 日欧言語交流史
欧米の日本語学習と日本の西洋語学習に関する史的研究

教員氏名　金澤　裕之　　Kanazawa Hiroyuki
専門領域　日本語教育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，日本語学講義Ⅰ/Ⅱ，日本語学演習Ⅰ/Ⅱ，日本語教育総合演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　日本語学
私の教育デザイン
① 文法の面から捉えた日本語教育
学習者作文の添削
誤用分析
適切な指導法の検討
（日本語教育，英語教育）
② 社会言語学的な面から捉えた日本語教育
会話分析
待遇表現の理解と指導
状況に応じた表現の選択
（国語教育，英語教育）
③ 日本文化の面から捉えた日本語教育
近代以降の歴史
横浜を中心とした地理
新聞や放送などから見る大衆文化
（社会科教育）

教員氏名　河野　俊之　　Kawano Toshiyuki
専門領域　日本語教育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，日本語教授法講義Ⅰ/Ⅱ，日本語教授法演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　日本語教育
私の教育デザイン
① 日本語教育方法論
日本語教育の現状を正確に見て，より適切な指導法を検討する。また，教材のあるべき姿やその活用の仕方について考える。
日本語教育方法の改善に必要とされる日本語教育学の現状を見て，よりよい研究が行えるようになる。音声教育方法については特に詳細に扱う。
（日本語教育，英語教育，国語教育，教育学）
② 日本語教師養成
プレサービス及びインサービス日本語教師の成長の過程やその方法について検討する。
（日本語教育，教育一般）
③ 音声学
日本語音声のうち，特にプロソディーについて扱う。
（日本語教育，英語教育，国語教育）

教員氏名　橋本　ゆかり　　Hashimoto Yukari
専門領域　日本語教育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，日本語教育研究方法論講義Ⅰ/Ⅱ，日本語教育研究方法論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　第二言語習得
私の教育デザイン
① 第一、第二言語習得
第一言語習得と第二言語習得に関する知識を学び、総合的に言語習得の道筋を追究する。
日本語学の知見を踏まえ、言語類型論的観点も取り入れながら文法習得を考える。
実際の発話を手掛かりに、学習者の内外要因を考慮しつつ、発話を駆動するメカニズムを探る。
（日本語教育、英語、国語、心理学）
② 認知言語学
認知言語学の用法基盤モデルを学び、日本語における有効性を考える。
認知言語学の日本語教育への応用を考える。
（日本語教育、国語）
③ 年少者教育（教員養成）
日本語教育の実態を把握し、教員のあり方を学ぶと共に、学習言語・生活言語、アイデンティティ、異文化理解といった諸問題を考える。
（日本語教育）

教員氏名　青山　浩之　　Aoyama Hiroyuki
専門領域　国語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，書写書道講義Ⅰ/Ⅱ，書写書道演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　書写書道教育、書字教育および書表現
私の教育デザイン
① 言語活動に機能する国語科書写研究
各教科指導における「書くこと」の研究
国語と書写の学力論
文字教育の学習開発
書写書道教育を基礎とした学習指導方法論・授業研究
（各領域・教科との連携）
② 文字を手書きする意識と感覚に関する研究
書字習得に関する研究
（心理学・言語学・芸術学・古典文学・社会学などとの連携）
③ 表現文化と文字表現・書表現・書制作
脳の活性化を促す書表現（成果物：『脳トレ書道トレーニングブック』）

教員氏名　一柳　廣孝　　Ichiyanagi Hirotaka
専門領域　国語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，日本近代文学講義Ⅰ/Ⅱ，日本近代文学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　日本近現代文学・文化史
私の教育デザイン
① 日本近現代文学研究の方法論を土台とした教材分析、教材研究
（国語教育、心理学、社会学、図像学などとの連携）
② 文学館などの活用を意識した授業作り
（図書館情報学などとの連携）
③ 現代のサブカルチャーを意識した国語教育
（社会学、社会科教育、表象文化論、メディア論などとの連携）

教員氏名　髙木　まさき　　Takagi Masaki
専門領域　国語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，国語カリキュラム論講義Ⅰ，国語カリキュラム論演習Ⅰ，国語教授法講義Ⅱ，国語教授法演習Ⅱ，課題研究
専　　門　国語教育学、NIE
私の教育デザイン
① 国語科における「言語活動」の授業づくりを通して、他教科等との関連から、国語科の役割を考える。
・背景理解（社会状況、学力調査等）
・教育内容及び教材の分析と体系化
・授業づくり、単元構成の実際（すべての教科等）
② 言語生活・読書生活の一環として、学校内外における新聞活用の可能性を探る。
・教科学習、総合的な学習
・情報教育、メディアリテラシー教育
・キャリア教育
（教育学、メディア論、すべての教科等）
③ 言葉の教育と子どもの抱える諸問題との関連を探り、言葉と教育の在り方について考える。
（教育学、社会学、心理学、現代思想など）

教員氏名　髙芝　麻子　　Takashiba Asako
専門領域　国語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，中国古典文学講義Ⅰ/Ⅱ，中国古典文学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　中国古典文学
私の教育デザイン
① 漢字・漢語表現を身につける
漢字や漢語表現（熟語・故事成語）などの成り立ちや意味などを知ることは、日本語を運用して行く上で非常に重要な意味を持つ。豊かな言語知識を育むために、文字・語彙レベルで漢字文化と向き合い学ぶ。
② 中国文学・中国哲学の原典を読む
論語・唐詩・三国志演義など中国の古典文学や哲学は、日本の文化、文学、語彙などに強い影響を与えている。その原典に直接向き合い、内容を正確に読み解く訓練を積むことで、原典を自力で理解するための基礎力を身につける。
③ 漢文に親しむ
漢文は外国語で書かれた文章であるとともに、日本でも書面語として長く親しまれ、また漢文訓読という独自の技法とともに日本文化の中に深く根付いてきた。たとえば作文技法の基礎として広く知られる「起承転結」は漢文（漢詩）の作り方に由来する発想である。その漢文に親しく触れることにより、異文化と日本文化双方を学ぶ契機とし、また国語教育における教材研究力を養う。

教員氏名　古田　恵美子　　Furuta Emiko
専門領域　国語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，日本語史講義Ⅰ/Ⅱ，日本語史演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　日本語史
私の教育デザイン
① 生の日本語資料の研究　平安・鎌倉時代に書かれた生の日本語資料を研究している。授業でも博物館や美術館での実物の見学を取り入れている。他領域にかかわる古文書なども読解の用意がある。（社会等全ての領域）
② 言語生活の研究　日本語資料は、生活の中で何らかの目的をもって使われたものである。言葉を知る事は生活を知ることである。日本以外の文化と比較する場合も、日本語の生活を知ることは、基本的に必要である。（社会、生活科、音楽、家政、美術、英語、都市文化、等）
③ 学生や児童生徒に合った教育内容デザイン　言葉は変化する。また、児童・生徒に必要な言語能力も社会の変化とともに変わっていく。独創的な教育デザインを作るためには、それ以前に多くの知識や経験を持ち、観察を基に、柔軟にそれらを結びつけられることが必要である。専門だけでなく、育児等での生活者としての視点も総動員して考えていきたい。（全ての領域）

教員氏名　三宅　晶子　　Miyake Akiko
専門領域　国語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，日本古典文学講義Ⅰ/Ⅱ，日本古典文学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　中世文学（特に能楽）
私の教育デザイン
① 原資料を教材とした国語教育
影印の仮名文書・漢字文書・美術・工芸品などから読み取っていく情報。
文字情報だけに頼らない内容理解の方法を探る。
直面する自らの言語能力・文法の知識の必要性
（書道・美術・国語教育などとの連携）
② 古典芸能の有用性（能・狂言・歌舞伎・文楽など舞台芸術を活用した古典教育）
（音楽・美術・体育などとの連携）
成果物　４面マルチ画面で見る能（鉄輪・松風のDVD、テキスト）
③ 遠くて近い古典＝他領域との連携の楽しさ
他領域の情報を重ねることによって明らかになる古典の世界
月の運行、年中行事、歴史・経済、道具、装束、調度、建物等
（あらゆる領域）

教員氏名　川添　裕　　Kawazoe Yu
専門領域　英語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，英米文化講義Ⅰ/Ⅱ，英米文化演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　文化史、比較文化（日、米、英、東アジアを中心に）、国際理解
私の教育デザイン
① グローバル化と様々なかたちでの文化接触が進行する世界状況を踏まえ、異文化理解、多文化理解の能力を養成し、またそこから逆に、日本文化についての相対的な観点と基本知識を身につけさせる。
② 開港以来の横浜という街の形成史を通じて、社会文化の歴史的ダイナミクスを理解する方法を身につけさせる。
③ 文化史教育プログラムの研究、開発。
④ 学校以外の実社会でもコミュニカティヴに生きるための、そしてまた人生の財産である幅広い教養を身につけるための、道具としての英語力の養成。

教員氏名　合田　典世　　Goda Michiyo
専門領域　英語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，英米文学講義ＡⅠ/ＡⅡ，英米文学演習ＡⅠ/ＡⅡ，課題研究
専　　門　英文学
私の教育デザイン
① 文学作品鑑賞を通じての総合的な語学力の養成：
・語彙力の強化
・言語使用域（レジスター）の適切な認識
・文脈読解力の強化
（英語教育、国語教育）
② 文学作品鑑賞を通じての文化理解：
・社会・歴史・文化的事項の理解
・作品と背景の関わりの適切な認識
（英語教育、国語教育、社会教育）
③ フィクションの教材としての可能性の探究：
フィクションの言語特徴の理解
（教育学、英語教育）

教員氏名　斉田　智里　　Saida Chisato
専門領域　英語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，英語教育学講義ＡⅠ/ＡⅡ，英語教育学演習ＡⅠ/ＡⅡ，課題研究
専　　門　英語教育学，テスティング
私の教育デザイン
到達目標：リサーチ・マインドをもった英語教育者の育成
① 英語教育学の諸課題に関する問題意識の明確化
・英語教育学の基本的な文献を批判的に読む
・英語教育学研究の最前線を探究する
・理論に基づいた授業力の向上を図る
② 英語教育学の研究法とデータ分析法の習得
・英語教育学の研究法を理解する
・基礎的データ分析法を習得する
・英語教育学の論文スタイルを学ぶ
③ 言語テスト論の理解と実践力の向上
・言語テスト論の基本的考え方を理解する
・言語テスト研究の最前線を探究する
・理論に基づいたテスト開発・作問ができる

教員氏名　佐野　富士子　　Sano Fujiko
専門領域　英語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，第二言語習得論講義Ⅰ/Ⅱ，第二言語習得論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　第二言語習得論、英語教育学
私の教育デザイン
実践の場で通用する理論の裏付けをもった英語教師の育成
① 第二言語習得プログラムの理解
・英語を母国としない生徒はいかに英語を学ぶか
・生徒の英語習得をいかに促すか
・第二言語習得プロセスを促進する要因は何か
② 英語教育実践のための第二言語習得論の基礎的理解
・理論に基づく外国語指導法
・多技能統合型の授業実践力の育成
・４技能の評価と測定（英語教育学、テスティング）
③ アウトプットとしてのライティング力育成
・ライティング力を伸ばす指導法
・効果的なフィードバックのあり方
・ライティング力の測定と評価者の育成（英語教育学、テスティング）

教員氏名　高橋　邦年　　Takahashi Kunitoshi
専門領域　英語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，英語学講義Ⅰ/Ⅱ，英語学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　生成文法，認知文法
私の教育デザイン
① 理論偏重でない英語文法探究
：精緻な記述　英語文法を理解したうえで標記のことを探究する（統語論，認知言語学）
② 学習段階に応じた文法シラバス
：標記の文法　シラバスに応じた教材開発と指導法の模索（言語習得論）
③ 語用論的な配慮
：実用的かつ自然な英語の指導（語用論）

教員氏名　丹治　陽子　　Tanji Yoko
専門領域　英語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，英米文学講義ＢⅠ/ＢⅡ，英米文学演習ＢⅠ/ＢⅡ，課題研究
専　　門　アメリカの文学と文化
私の教育デザイン
① 論理力養成
文学を中心としたテクストを読むことで、論理的に理解する能力を養成し、そのうえで、論理的に表現する能力を養成する。(国語)
② 英語力養成
英米文学のテクストを原文で読むことによって(精読および多読)、教育現場で必要とされる英語力を養成し、英語についての十分な知識を身につけさせる。
③ 異文化理解
アメリカの文学と文化を学ぶことをとおして、異文化理解のための能力を養成し、逆に日本についての相対的な観点を身につけさせる。(国語、社会)

教員氏名　満尾　貞行　　Mitsuo Sadayuki
専門領域　英語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，英語教育学講義ＢⅠ/ＢⅡ，英語教育学演習ＢⅠ/ＢⅡ，課題研究
専　　門　TESOL、英語教育（中高教科教育、小学校外国語活動）
私の教育デザイン
① 小学校外国語活動研究
プログラム内容を三者（小学校教員、大学教員、研究目的をもった院生）の視点で考え、院生が、小学校外国語活動研究をemic，etic両側の視点から研究できるように指導。
② 中・高授業研究（Classroom Research）
リサーチ・デザイン（リサーチ・クエスチョン、授業観察等によるデータ収集、データ質的・量的分析の基礎）をしっかり学び、よりよい授業を目指した研究と指導。
③ ティーチング・トレーニング
トレーニングの場として、当該科目を位置づけ、指導（例えば中学英語教師志望で、小・中の連携に興味がある、オール・イングリッシュの授業ができるように英語力のみならずteacher　talkの技術を身につけたい、など)。
(都内の複数の小学校で以上のプログラム実施！)

教員氏名　渡辺　雅仁　　Watanabe Masahito
専門領域　英語
担当科目　教育デザイン，教育インターン，比較言語学講義Ⅰ/Ⅱ，比較言語学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　言語学，英語学，音声学
私の教育デザイン
① コミュニケーション力を強化する文法学習教材の開発
最新の語法研究の成果をふまえつつ，欧米の学習英文法と日本の学習英文法の比較を通じて，対話の文脈の中でどのように文法指導が行われるべきかを考察する。(英語教育学，英語学)
② 英語初習者の発音分析に基づいた指導方法の開発
教員にも学習者にも無理なく，英語の発音方法について理解できるような発音指導方法を考察する。(英語教育学，英語学，音響音声学)
③ 海外の教育機関と連携した英作文学習教材の開発
学習者の英作文の分析を通じ，日本人学習者にとってより相応しい英作文指導のあり方を考える。(英語教育学，情報リテラシー教育，社会科教育)

教員氏名　池口　明子　　Ikeguchi Akiko
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，人文地理学講義Ⅰ/Ⅱ，人文地理学演習Ⅰ/Ⅱ，地理学野外実習Ⅱ，課題研究
専　　門　人文地理学
私の教育デザイン
① 国内外に生じている具体的な地域問題や，人文地理学・地誌学の理論・実証研究の動向を踏まえたカリキュラム開発（教育学）
② 最新のフィールドワーク論や地理情報科学を踏まえた地理学習資料・地図作成の技能の養成，動態地誌のための教材開発（教育学，家政，理科）
③ 学校をとりまく地域社会，子どもが生活する場所としての地域社会を多角的に理解できる教員の養成

教員氏名　片岡　浩二　　Kataoka Koji
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，経済学講義Ⅰ/Ⅱ，経済学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　経済学
私の教育デザイン
① 最新の経済理論や日本経済論を踏まえた社会科・公民科（経済分野）のカリキュラム開発
（教育学，心理学との連携）
② 学校の社会科・公民科（経済）教育のクオリティを向上させるための教材開発
（教育学，心理学との連携）
③ アメリカなどの諸外国の経済教育の動向を踏まえた社会科・公民科教員養成のあり方
（教育学との連携）

教員氏名　加藤　千香子　　Kato Chikako
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，歴史学講義B（日本近現代史）Ⅰ/Ⅱ，歴史学演習B（日本近現代史）Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　日本近現代史
私の教育デザイン
① グローバル化が進む現代という時代を前提に、国民国家の問題や差異・ジェンダーの視点をふまえた新しい歴史教育プログラムの開発、研究
（都市イノベーション国際文化など）
② 日本近現代における歴史的史資料の収集・分析方法についての理解、メディア表象や活字文献の読解能力を養うことなどによって、歴史教育に役立つ教材開発につなげる。
（都市イノベーション国際文化など）
③ 日本近代の歴史における教員養成のあり方やその問題についての認識を深めながら、現代やこれからの教員養成とのかかわりについて考える。

教員氏名　重松　克也　　Shigematsu Katsuya
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，社会科・公民科教授法講義，社会科・公民科教授法演習，社会科・公民科カリキュラム論講義，社会科・公民科カリキュラム論演習，課題研究
専　　門　社会科教育学
私の教育デザイン
① 人文・社会諸科学との連関、及び価値意識と社会的判断の発達段階を踏まえた公民的領域におけるカリキュラム開発（教育哲学、社会学）
② 価値意識と社会的判断との相互連関を踏まえた教材開発と指導法（教育哲学、認知言語学、政治学、社会学）
③ 児童生徒の全面発達を視野に入れた社会科教員養成のあり方（教育史、教育哲学、社会学）

教員氏名　下城　一　　Shimojo Hajime
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，倫理学講義Ⅰ/Ⅱ，倫理学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　哲学，倫理学
私の教育デザイン
① 現代社会，教育現場における倫理学的諸問題の考察
近代社会の構造的批判的分析による倫理的諸問題の分析
哲学史・倫理学史的視点（教科書の思想家群）に立った考察
教育現場の倫理的諸問題に対する「自分を大切にする」視点（生きる力の養成、心理学、精神分析学等）からの検討（道徳教育、拒食症等食育関連を含む）
環境問題の倫理学的視点ならびに他教科（経済、法律等）関連の考察
② 道徳教育の教材開発（生命倫理学・応用倫理学等を含む）
総合学習等の教材開発（環境問題、世代間倫理学等）
〔成果物：『環境教育』，共立出版　2007〕
③ 小中高校における道徳教育・倫理教育の教科横断的な理論的研究・教材開発・実践指導

教員氏名　白取　道博　　Shiratori Michihiro
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，歴史学講義D（歴史認識論）Ⅰ/Ⅱ，歴史学演習D（歴史認識論）Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教育史学／青少年動員政策史／戦争文化論
私の教育デザイン
主に〈人間と発達デザイン〉に関わると思います。人々の歴史意識・歴史認識を形作る場の一つとして公教育における歴史教育に着目したいと思います。歴史教育が提供してきた認識は、人々の生活を支える思想たり得てきたのか。
「抽象語の皮は破れる」（鶴見俊輔）という言葉を念頭に置きながら、以下の諸点に関して共同作業をしたいと思います。
① 〈学校〉に発する教育慣行の系譜の追究
② 〈動員〉を視座とする教育史の探求
③ 〈戦争〉認識の伝達方法の考究

教員氏名　棚橋　信明　　Tanahashi Nobuaki
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，歴史学講義C（外国史）Ⅰ/Ⅱ，歴史学演習C（外国史）Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　西洋史学
私の教育デザイン
① 一次資料（同時代文献）及び画像資料を教材として活用する歴史教育のプログラム開発を課題とする。教材を過去の歴史的事実の「追体験」に利用する方法について検討を進めるが，こうした「追体験」と現代的視点に立った俯瞰的・客観的な歴史理解との両立についても考察を深める。
② 歴史研究者により編纂・公刊された史料集のみでなく，各国語の同時代史料の選択・翻訳も独自に行い，教材研究の材料として提供する。また，絵画や版画については，歴史学的観点から批判を加えたうえでの教材としての活用法について提言を行う。
③ 我々が直面している現代社会の諸問題との関連のなかで歴史教育の意義を認識し，そのうえで歴史学習の真の醍醐味を生徒に伝えることのできる教員の養成をめざす。

教員氏名　多和田　雅保　　Tawada Masayasu
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，歴史学講義A（日本前近代史）Ⅰ/Ⅱ，歴史学演習A（日本前近代史）Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　日本近世史
私の教育デザイン
① 日本前近代における地域社会の構造と展開をふまえた歴史社会の把握方法の追究
前近代における人々の生活様式、とくに人間と自然環境とのかかわりの追究
村・町・仲間など前近代社会の共同体論の深化
② 近世を中心とした日本前近代の身分制の特質の説明
前近代社会における商品・貨幣流通の展開と地域市場の変容、それらをベースとした政治過程の説明
③ 特定のフィールドを対象とした地域社会の歴史理解を通じての社会認識方法の研究
各地域における地方都市を舞台とした、歴史社会の変容に関する学習方法の追究

教員氏名　★西脇　保幸　　Nishiwaki Yasuyuki
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，社会科・地理歴史科教授法講義，社会科・地理歴史科教授法演習，社会科・地理歴史科カリキュラム論講義，社会科・地理歴史科カリキュラム論演習，課題研究
専　　門　地理教育
私の教育デザイン
① アメリカやトルコなど諸外国の事例を踏まえて、地理教育のカリキュラムのあり方を検討する（教育学）
② 小学校の国際理解学習や中学校・高等学校の世界地誌学習の教材開発と指導法について検討する（教育学・英語教育）
③ 小学校地域学習素材の見出し方や中学校・高等学校地域調査の指導法を考察することで、社会科教科の教員に不可欠な資質を向上する（理科教育）

教員氏名　吉田　圭一郎　　Yoshida Keiichiro
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，自然地理学講義Ⅰ/Ⅱ，自然地理学演習Ⅰ/Ⅱ，地理学野外実習Ⅰ，課題研究
専　　門　自然地理学，植生地理学
私の教育デザイン
① 地理的なものの見方・考え方による教育デザイン
*野外活動（巡検）を通じた地域理解
*地形や気候を含めた自然を活用した環境教育
*自然と人間との関係からみた自然環境の理解
（教育学，理科）
② 身近な地域を理解させる社会科教材の検討
*身近な地域での教材の開発（発見）と活用
*地域理解のための地形図，絵図，写真などの資料活用
（教育学，理科）
③ 国際的な視点とバランス感覚を身につけた教員の養成
*熱帯，亜熱帯域を事例とした具体的な環境問題の理解
*多種多様な視点から環境問題を捉える能力の育成
*グローバルな課題でのローカルな視点の重要性の理解
（理科，英語）

教員氏名　山本　泰生　　Yamamoto Yasuo
専門領域　社会
担当科目　教育デザイン，教育インターン，社会思想論講義Ⅰ/Ⅱ，社会思想論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　ドイツ現代思想
私の教育デザイン
① 社会・歴史に関する認識力と哲学文学に関する鑑賞力を関連させる素材によるカリキュラム研究
② 社会科学的文献については芸術的要素を、芸術作品については哲学・社会認識的要素を認識させる教材開発と理解力の育成
③「情報伝達者」に留まらない「知性育成者」としての教員の役割に対する自覚を促す

教員氏名　池田　敏和　　Ikeda Toshikazu
専門領域　数学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，算数・数学カリキュラム論講義Ⅰ/Ⅱ，算数・数学カリキュラム論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　数学教育
私の教育デザイン
① 複数のカリキュラムの対比・検討
日本の歴史的なカリキュラム、米国、英国のカリキュラム等と現行の日本のカリキュラムとを対比しながら違いを見出し、その違いから何が示唆されるかを考えます。
② 児童・生徒の問題意識を基にした教材研究
（1）なぜそれを学習するか、（2）児童・生徒はどのように考えるか、（3）その教材はどのように発展していくか、に着目しながら、教材研究を進めます。
③ カリキュラム構想・授業構想
上記①、②を基にしながら、何をどのような流れで指導していくのか、また、具体的に、授業をどのような展開で行うのかを考えます。

教員氏名　石田　淳一　　Ishida Junichi
専門領域　数学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，算数・数学教育研究方法論講義Ⅰ/Ⅱ，算数・数学教育研究方法論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　算数科教育方法学
私の教育デザイン
① 考える「足場」のある算数授業づくり：すべての子供の学習を効果的なものにするために、1時間の授業展開、1単元の指導計画の設計において、学習の基盤づくりの活動を工夫することを提唱している。（足場のある算数授業）
② 協同学習を取り入れた算数授業づくり：既習事項との関連や課題設定や問題解決の見通しを相談しながらクラス全体で新しい学習内容を学ぶ活動から始める授業展開を提唱している。
③ 話し合う力を育てるシナリオと授業記録を活用した話し合い指導：話し方・聴き方・話し合い仕方のモデルを示し、話し合いの仕方を指導したり、実際の授業記録を用いて指導したりする算数授業を提唱している。（シナリオ授業）

教員氏名　茨木　貴徳　　Ibaraki　Takanori
専門領域　数学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，解析学講義，解析学演習，課題研究
専　　門　非線形関数解析学、凸解析学
私の教育デザイン
① 数学の基礎知識の取得：
解析学を学ぶことを通して数学の基礎知識の習得を行う。児童・生徒に算数・数学を教える際にしっかりとした基礎知識に裏付けされた授業を行える人材育成を目指す。
② 数学的思考力の習得：
問題演習、レポート課題等を通じて様々な問題を解くことで数学的思考力を身につける。さらに、多くの問題に触れることで、児童・生徒の学力にあった適切な教材の作成を行える人材育成を目指す。
③ 数学の指導法の習得：
授業での問題演習、ゼミナールでの発表等を通じて、他者に説明する訓練を行う。このことで児童・生徒の目線にたった授業が行える指導法を養う。

教員氏名　馬場　裕　　Baba　Yutaka
専門領域　数学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，応用数学講義，応用数学演習，課題研究
専　　門　応用確率論，オペレーションズ・リサーチ
私の教育デザイン
① 社会現象の数学的モデル化
確率モデル，微分方程式モデルなどの教材開発を行い，数学が社会で使われていることを実際に教えることのできる人材養成を行う。
② 高校数学，大学数学における数学的発想による問題の解き方
数学的発想による問題解決を学び，さらに教材開発や指導法を研究する。
③ 数学ソフトを用いた教材開発
数式処理ソフト、グラフ描画ソフト、幾何教育ソフト等を用いて数学教材の開発を行う。

教員氏名　両角　達男　　Morozumi　Tatsuo
専門領域　数学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，算数・数学科教授法講義Ⅰ/Ⅱ，算数・数学科教授法演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　数学教育
私の教育デザイン
① スパイラルを重視した数学的活動の開発と検討
学習者が今まで学んだことがらについて新たな意味を形成したり，これからの学びに向けた洞察を行うことができる教材や数学的活動を開発し，その効果について考えます。
② 授業者と学習者双方の視点からみた授業の分析
単元レベルでの題材感や柔軟な授業展開を重視した授業者の視点からの授業分析，学習者の視点からみた臨床的な学びの分析を通して算数・数学授業のあり方を検討します。
③ 子どもの「問い」を軸とした算数・数学の授業構想
上記①，②を基にしながら，子どもの「問い」を軸とした算数・数学授業の展開について考えます。

教員氏名　山形　紗恵子　　Yamagata　Saeko
専門領域　数学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，課題研究
専　　門　幾何学的群論
私の教育デザイン
① 数学の基礎力を固める：
数学、特に幾何学について、色々な公理系に触れ、様々な定理をその歴史的背景も含めて学ぶことを通して、今まで学んだ知識を体系的に整理し、自分の頭で理論を再構築する。
② 自分の考えを論理的に説明する力をつける：
セミナー、レポートなどを通して、自分で考えたことについて他人に分かりやすく、口頭もしくは文章で論理的に説明し、伝えるための訓練をする。
③ 数学の教員として授業をするための力をつける：
①、②を繰り返し続けることによって、将来教員として授業をするために必要な基礎力を養う。

教員氏名　山本　光　　Yamamoto　Ko
専門領域　数学
担当科目　教育デザイン，教育インターン，情報科学講義，情報科学演習，課題研究
専　　門　位相幾何学的グラフ理論、情報教育、著作権教育
私の教育デザイン
① 数学の題材として、離散数学や情報科学の利用
離散数学や情報科学の基礎を学ぶことを通して、児童や生徒が興味・関心を持てるような授業に活用できる人材育成を目指す。
② 情報科学や離散数学を教えることのできる教員養成
情報科学の基礎や離散数学の基礎を習得し、学習活動へとつなげることのできる教員を目指し、教材の作成やカリキュラムの研究を行う。
③ 教科の中での情報化
算数や数学のみならず、各教科の中で情報コミュニケーション技術を活用し、著作権や情報モラルを考慮した教育活動の研究を行う。（国語、社会、英語、保健体育、音楽、美術、技術、家政）

教員氏名　加藤　圭司　　Kato　Keiji
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，理科カリキュラム論講義Ⅰ/Ⅱ，理科カリキュラム論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　学習者の自然認識の実態解明、理科授業構築と学習指導方略、生物・地学教材とカリキュラム研究
私の教育デザイン
① 学習者の自然認識の形成と発展過程を、社会・文化的文脈に即して解明すること。実態調査を中心に展開し、学校教育だけにとらわれない学習者固有の認識実態に迫ります。また、明らかになった特性を、初等中等教育にフィードバックしていく視点を探ります。
② 小・中学校における理科授業実践を研究フィールドとして、授業の進展と共に構築される学習者の科学概念の姿を、社会・文化的視座から解明すること。理科授業への長期的な参与観察と分析から、学習者の実像に迫ります。
③ 生物・地学分野の学習内容を事例として、学習者の認識特性に即したカリキュラムや授業実践のあり方を解明すること。学習内容分析、教材分析、学習者の内容理解分析をもとに、学習指導における改善の指針を探ります。

教員氏名　河潟　俊吾　　Kawagata Shungo
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，地質学講義，地質学演習，課題研究
専　　門　海洋微古生物学・古海洋学
私の教育デザイン
① 様々なスケールでの正しい地球観の育成
・フィールド調査に基づく地球科学の理解
・調査方法の指導
② 生物と地球環境変遷史の正しい理解
・実験・観察に基づく事実の記載と新たな発見
・実験・観察方法の指導、開発
③ 過去の地球を知り、現在を理解し、未来を予測
・人類活動の地球環境への影響と回復
・自然災害の地球環境への影響と回復

教員氏名　倉田　薫子　　Kurata Kaoruko
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，植物学講義，植物学演習，課題研究
専　　門　植物系統進化学、植物地理学
私の教育デザイン
① フィールド調査を主体とした植物科学（家政、生活、社会、保健体育）
・フィールド調査の方法と演習
・身近な植物を用いた教材開発
・植物と人間のかかわり
② 生物多様性への理解（生活、社会）
・絶滅危惧植物の保全と復元
・自然環境の成立と地球の未来を考えるプログラム開発
・博物館などの学外施設と連携した環境学習プログラム開発
③ 植物の生存戦略に関する研究
・食虫植物の生態、種分化様式
・小笠原、ハワイ、ガラパゴスなど島嶼における固有植物の進化と分類

教員氏名　鈴木　俊彰　　Suzuki Toshiaki
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，有機化学講義，有機化学演習，課題研究
専　　門　有機化学・化学教育
私の教育デザイン
① 身の回りの物質を教材とした化学教育：学習内容と身の回りの物質を関連付けた授業デザイン
身の回りの物質を用いた実験の立案と実施／理科の授業に活用できる生活環境からの問題抽出／実生活の実感を伴った内容理解／科学的に探究する態度・科学的な見方や考え方の育成
② 自然現象を教材とした化学教育：学習内容と自然現象を関連付けた授業デザイン
身近な自然現象を利用した実験の立案と実施／理科の授業に活用できる自然環境からの問題抽出／観察・実験などを通した問題解決能力の育成
③ 環境問題を教材とした化学教育：学習内容と環境問題を関連付けた授業デザイン
環境問題を題材とした実験の立案と実施／理科の授業に活用できる環境問題からの問題抽出／グリーンケミストリーに基づいた環境教育

教員氏名　津野　宏　　Tsuno Hiroshi
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，無機化学講義，無機化学演習，課題研究
専　　門　地球・環境科学
私の教育デザイン
① 理科（科学）の題材として地球環境中の現象の利用
学校でも取り上げられる環境問題への適切な理解を通じて、生徒・児童に化学への興味・理解を深めるために活用する方策を検討する。（社会、家政、技術、保健体育）
② 学校現場で中核になる理科教員養成のためのプログラムの開発
学校現場などで理科の教育の中核になれる教員に必要な知識・スキルを検討し、養成プログラムを開発、実施を行う。（家政、技術、保健体育、国語、心理学）
③ 社会における科学にまつわる諸問題の理解
現代社会の諸問題は科学と不可分にはあり得ない。文化や社会を支える科学、似非科学が社会的に影響を与えている問題について理科教員が理解し、学校現場で児童・生徒に適切な教育を行うための方策を検討する。
（社会、家政、技術、保健体育、国語、心理学）

教員氏名　西　栄二郎　　Nishi Eijiroh
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，自然史科学講義，自然史科学演習，課題研究
専　　門　自然史科学、生物多様性科学
私の教育デザイン
① 理科の題材としての生物系の教材開発
教育現場で取り上げられる身近な生きものなどについて、教材として理解を深めるとともに、学校現場での実践的な活用が可能な有用教材を開発していく。（家政、生活科、社会）
② 理科教育を補填する場としての自然史博物館の応用
学校では学ぶことの難しい教材を学外にもとめ、自然史博物館等で児童・生徒が楽しみながら、あらたな発見ができるようなプログラムを開発していく（社会、生活科、家政、保健体育）
③ 環境学習としての野外の自然環境の利用
理科教育・環境教育の一環として、野外の自然公園や林、里山などを活用して、大きな生きた教材を学校現場で利用できるようなプログラムを開発し、学校現場を離れて教員と児童・生徒が一緒に学ぶことのできるような方策を検討する。（生活科、社会、家政、保健体育、心理）

教員氏名　平島　由美子　　Hirashima Yumiko
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，物性物理学講義，物性物理学演習，課題研究
専　　門　物理教育、高分子物性
私の教育デザイン
① 身近な素材を利用した物理実験教材の開発と活用：
単元学習の中での物理実験教材の有効な活用方法を検討する。身近な素材を利用した物理実験教材を開発する。
② 小中高等学校での物理の学習内容の系統性に関する研究：
小中高等学校で取り上げる物理（力学、電磁気、熱、波動）に関する学習内容のつながりを調べ、科学的な概念との結びつきを考える。学習内容の系統性や科学的な概念との結びつきを重視した理科指導の在り方を具体的に検討する。
③ 高分子ゲルの基礎物性に関する実験：
高分子ゲルの膨潤特性や力学特性を実験的に調べる。

教員氏名　筆保　弘徳　　Fudeyasu　Hironori
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，気象学講義，
　　気象学演習，課題研究
専　　門　　気象学・地球科学
私の教育デザイン
① 防災教育カリキュラムの開発：
　過去の気象災害事例を調査し、防災意識の向上を図るための、各地域に適した実践的な教育プログラムの開発・研究を行う。
② 学校気象教育のクオリティを向上させるための教材開発：
*室内実験装置などの地球科学実験装置の開発
*気象教育観測システムによる大気上層風理解の指導法
*数値シミュレーションによる気象状況の可視化
③ 気象学と他領域の関係の解明：
　社会、経済、歴史、文学、スポーツ等他領域の情報を重ねることによって明らかになる気象・気候の影響力・重要性を調べる。

教員氏名　森本　信也　　Morimoto　Shinya
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，理科教授法講義
　　Ⅰ/Ⅱ，理科教授法演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　理科教授・学習論
私の教育デザイン
① 子どもの科学概念構築に係わるパフォーマンス評価
小・中学校での理科授業における子どもの概念構築に係わるパフォーマンス評価方法の開発
② 小・中学校での理科授業における子どものパフォーマンスの要素の分析
子どもの問題解決の過程に係わるパフォーマンスの要素の分析
③ パフォーマンス評価を基礎にした理科授業デザイン
小・中学校での子どものパフォーマンスを基礎にした理科授業のデザイン

教員氏名　山本　郁夫　　Yamamoto　Ikuo
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，現代物理学講義，
　　現代物理学演習，課題研究
専　　門　物理教育，物性実験
私の教育デザイン
① コンピュータを利用した物理学生実験の開発：
　学校教育で使える「力学，電磁気，熱，波動」現象に関連した実験テーマとコンピュータ技術を融合させる研究。
② カオス系の理論的実験的研究：
　力学系，電気回路系などで見られるカオス系を，計算機シミュレーションや実験的な力学的電気的モデルにより調べる。
③ レーザ光散乱を用いた溶液の動的挙動の観測：
　溶液中の微粒子の緩和現象を，レーザ光散乱の技術と量子光学的な手法により調べる。

教員氏名　和田　一郎　　Wada　Ichiro
専門領域　理科
担当科目　教育デザイン，教育インターン，理科教授法講義
　　Ⅲ，理科教授法演習Ⅲ，理科カリキュラム論講義
　　Ⅲ，理科カリキュラム論演習Ⅲ，課題研究
専　　門　理科教授・学習論
私の教育デザイン
① 子どもの科学概念構築過程を可視化する方法に関する研究。具体的には，子どもの科学概念の変容を表象機能の高次化と関連付けることによって，子どもの思考の内実を構造的に捉え，それを可視化する方法について検討している。
② 協同的な学習を通じた科学概念構築の実体の解明。加えて，授業実践の分析を通じて，具体的な授業デザインの視点の導出を図っている。
③ 理科教育における自己調整学習の成立過程に関して，理論・実践の両面から研究を行っている。

教員氏名　鬼藤　明仁　　Kito　Akihito
専門領域　技術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，技術科カリキュ
　　ラム論講義，技術科カリキュラム論演習Ⅰ/Ⅱ，
　　課題研究
専　　門　技術科教育，情報教育
私の教育デザイン
① 技術科の学習指導と評価：
　中学校技術・家庭科の技術分野の授業運営を，教育現場での実践を基に研究する。
（教科教育学）
② ものづくりの学習における生徒の内観の分析：
　生徒の「関心・意欲・態度」の形成過程を，心理学的知見を基に研究する。
（教育心理学）
③ 情報活用能力を育成する授業展開：
　「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の伸長を，教材開発を基に研究する。
（教育工学）

教員氏名　小林　大介　　Kobayashi　Daisuke
専門領域　技術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，木材加工学講義，
　　木材加工学演習，課題研究
専　　門　木材加工学、木のものづくり、環境工学
私の教育デザイン
① 技術科の木材加工の指導と評価
　中学技術科における木材加工分野の指導方法・評価方法について、実習による木材加工のスキルの向上や教育現場での実践を通して、指導方法、評価方法に関する研究を行う。
② 木のものづくりに関する教材開発
　自然由来材料である木材・木質材料の物理的性質、力学的性質を踏まえた上で、中学校技術の木材加工分野で用いるのに有効な教材開発を行う。
③ 木材科学を通しての教育環境に関する研究
　木材の物理的性質を明らかにし、木造や木質内装された校舎の教育環境としての快適性の研究を行う。

教員氏名　坂本　智　　Sakamoto Satoshi
専門領域　技術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，金属加工学講義，金属加工学演習，課題研究
専　　門　機械加工学、精密加工学
私の教育デザイン

① 環境に優しい加工法の開発
「ものづくり」においても、循環型社会を意識した対応が必要であると考え、「高精度・高効率」とともに「環境」のキーワードを加えた環境調和型工具や加工法の開発・確立を試みる。

② 機械・金属加工関連の教材開発
様々な工業材料の機械的特性などを踏まえた上で、中学校技術の機械分野および金属加工分野で用いるのに有効な教材開発を行う。

③ 新しい工具・加工機械の開発
柔軟な発想とアイデアを活かし、新しい加工機構等を備えた工具および加工機械の開発を試みる。また、教育現場であると便利なアイデア工具等の開発も試みる。

教員氏名　但馬　文昭　　Tajima Fumiaki
専門領域　技術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，情報計測学講義，情報計測学演習，課題研究
専　　門　計測光学、情報技術教育
私の教育デザイン

① 技術科の情報に関する技術（計測・制御）の教材
中学技術科における計測・制御教材について、科学・技術の視点から題材・指導法について考える。

② 計測に関わる身近なナノテクノロジー教育教材の開発と実践
身近な素材を使ってナノテクノロジーに容易に触れることができる計測教材を開発し、中学・高校での実践を試みる。

③ 電気に関わる身近なものづくり教育教材の開発
近年身近に使用されるようになった電気機器の中で、設備等が不十分な中学・高校ではものづくり教材として取り上げられることがないものに焦点を当て、ものづくり教材化を図り、その仕組み等について科学・技術面から理解を深めることができるようにする。

教員氏名　横尾　恒隆　　Yokoo Tsunetaka
専門領域　技術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，技術科教授法講義，技術科教授法演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　技術・職業教育
私の教育デザイン

① 新学習指導要領実施に関する現場での課題の検討
新学習指導要領完全実施を控え、中学校現場でどのような課題があるのかを、現場教師とともに検討する。

② 欧米諸国の技術教育のカリキュラムに関する研究
新学習指導要領のカリキュラム構成に大きな影響を与えたと考えられる欧米諸国（とりわけアメリカ）の技術教育カリキュラムについて検討する。

③ 新学習指導要領完全実施のための方策に関する検討
上記の検討に基づき、新学習指導要領完全実施のために必要な方策について、現場教師とともに検討を進める。

教員氏名　工藤　由貴子　　Kudo Yukiko
専門領域　家政
担当科目　教育デザイン，教育インターン，家族関係学講義，家族関係学演習，家庭科カリキュラム論講義Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　家政学原論、生活経営学、家族関係学、老年学
私の教育デザイン

① 家庭科における家族・家庭生活分野の研究
家政学の理論・実証研究の動向や成果を、家族・家庭生活をめぐる具体的な課題解決のための実践的知識として理解し、応用していく方法とカリキュラムの開発。

② 人の一生という全体を捉える生活観の育成
人間の生涯発達を支援するという視点から、人生の各ライフステージにおける家族・生活経営をめぐる諸課題を発見し、解決に向かう生活のマネジメント力の養成とそのための教育プログラムの検討を行う。

③ 持続可能な生活への理解
持続可能な生活の実現に向けて、家政学の視点から問題を指摘し、個人、家族、コミュニティのウェルビーングを向上させる生活を提案し、その実現のための環境をつくる能力開発の支援を行うことのできる教員の養成。

教員氏名　佐桑　あずさ　　Sakuwa Azusa
専門領域　家政
担当科目　教育デザイン，教育インターン，住居学講義，住居学演習，家庭科カリキュラム論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　住居学、地域居住学
私の教育デザイン

① 家庭科における住居分野の研究
住居の機能、住文化、住空間、住環境に関する研究を理解し、それを活用した小・中・高の授業づくりの検討を行う。（家庭科、技術、生活科、社会）

② 地域のまちづくりを担う人材育成とカリキュラムの検討
地域のまちづくりの様々な場面において、課題を発見しそれを解決できるための教育内容と人材育成の検討を行う。ワークショップやフィールドワーク等を通じた実習（あらゆる領域）

③ 住居・住環境管理手法と教材の検討
住居の内部空間の管理のみならず、公共財産として住居を捉え、周辺環境も含めた住環境管理の視点が必要である。それを住教育の中で展開するための教材づくりを検討する。（家庭科、生活科、社会）

教員氏名　薩本　弥生　　Satsumoto Yayoi
専門領域　家政
担当科目　教育デザイン，教育インターン，被服学講義，被服学演習，家庭科カリキュラム論講義Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　被服環境学・被服衛生学・被服構成学・被服学教育
私の教育デザイン

① 被服学分野の教育・研究による知見の利用
環境に配慮しつつ快適な衣生活を送るためには生活を科学的に見つめる必要がある。必要な知識・技能を提供する系統的な指導方法を検討する。繊維の燃焼，合成，洗濯等のe-learning教材を作成中（家庭，理科，技術）。

② 伝統文化の伝承・発信に関わる教育プログラムの開発
浴衣の着装を含む体験的学習を通して，日本の和服文化を次世代に伝承すること，海外に発信し国際理解を深めることを意図して，教育プログラムの開発と授業支援を行っている。浴衣の着装法や和服文化に関する教材を作成し，e-learning教材も作成中（家庭，英語，社会，国語，中国語）。

③ 学校の教育環境に関して被服環境学分野からの評価・提案
学校の温熱環境（体育館，運動場等）・被服環境（制服，体操服等）等の教育環境が健康的・快適な環境か，温熱および運動機能性の観点で被服環境の立場から評価し，必要に応じて改善を図る提案を行う。

教員氏名　杉山　久仁子　　Sugiyama Kuniko
専門領域　家政
担当科目　教育デザイン，教育インターン，家庭科カリキュラム論演習Ⅰ/Ⅱ，食物学講義，食物学演習，課題研究
専　　門　食物学、調理科学
私の教育デザイン
① 学校教育における食に関する指導の教材開発と指導法：調理に関連する内容を中心に、児童・生徒の生活実態を踏まえた教材・指導法について検討（家庭科、技術、生活科、理科、社会、保健体育、特別支援教育等）
② 地域連携による食に関する科学体験講座の検討及び検証：児童・生徒を対象とする短時間の実験・実習や一般の人を対象とする体験型講習会（家庭科、技術、理科、社会、保健体育）
③ 学校教育における食育を推進する人材を育成するための教員養成カリキュラムの検討（あらゆる領域）

教員氏名　園田　菜摘　　Sonoda Natsumi
専門領域　家政
担当科目　教育デザイン，教育インターン，児童学講義，児童学演習，家庭科カリキュラム論講義Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　乳幼児心理学、保育
私の教育デザイン
① 子どもの発達への理解を基にした家庭科・保育の授業作り
：乳幼児期の発達の特徴をふまえ、子どもへの働きかけの重要性を理解させるための保育の授業内容、方法、教材について検討する。（心理学、特別支援教育）
② 効果的な保育実習の検討
：保育実習の目的や意義について吟味した上で、地域の状況や学校の事情に合わせた効果的な保育実習のあり方について検討する。
③ 幼児の社会性の発達に影響する要因
：幼児を取り巻く様々な対人関係（母親、父親、保育者、仲間など）が幼児の社会性にどのような影響を与えるのかについて検討し、その意義を考える。（心理学）

教員氏名　堀内　かおる　　Horiuchi Kaoru
専門領域　家政
担当科目　教育デザイン，教育インターン，家庭科教授法講義Ⅰ/Ⅱ，家庭科教授法演習Ⅰ/Ⅱ，家庭科カリキュラム論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　家庭科教育学、ジェンダーと教育
私の教育デザイン
① 家庭科の授業開発とアクションリサーチ（家政、教育学）
小、中、高校の家庭科授業における子どもの学びのプロセスについて、エスノグラフィーや対話分析といった質的研究手法と質問紙調査による量的な手法を合わせて取り入れながら解明し、より良い授業実践に向けた提案を行っている。
② ライフヒストリー・アプローチによる教師のライフコースと力量形成に関する考察（教育学、あらゆる教科）
＊男性家庭科教員のキャリア形成をジェンダーの視点を読み解く研究や、家庭科教師としての成長過程について考察を行っている。
③ ジェンダーと教育に関する諸問題の分析と学校文化・教師文化（教育学、社会学、あらゆる教科）
＊学校教育及び子どもの生活世界におけるジェンダーの諸課題についての理論的・実証的研究を行っている。

教員氏名　大瀧　郁彦　　Otaki Fumihiko
専門領域　音楽
担当科目　教育デザイン，教育インターン，器楽（ピアノ）実践論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　ピアノ演奏法
私の教育デザイン
① 鍵盤楽器の構造と表現方法・奏法
各種鍵盤楽器の構造等の理解を通してピアノ演奏における効果的な表現方法・奏法を探る。
② 読譜力の習得と活用方法
多様な楽譜から情報および作曲者の意図を如何に正確に読み取るか。歌唱、合奏、鑑賞指導等への活用方策についても検討する。
③ 聴く能力の育成
音楽で最も重要でありながら目標設定が困難、かつ達成感が得られにくい「聴く」能力の育成方法開発。

教員氏名　小川　昌文　　Ogawa Masafumi
専門領域　音楽
担当科目　教育デザイン，教育インターン，音楽カリキュラム論講義Ⅰ/Ⅱ，音楽カリキュラム論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　音楽教育の思想、音楽カリキュラムの国際比較、音楽教育指導法
私の教育デザイン
① ポスト構造主義を踏まえた音楽カリキュラムの開発：自己表現と情操陶冶を目指さないインダクティブアプローチによる音楽教育プログラムの研究
（教育学、心理学、社会科教育、都市イノベーション国際文化）
② 学校の音楽教育のクオリティを向上させるための教材開発と指導法：
*移動ド唱法による歌唱指導
*合唱指導
*即興演奏と創作
（教育学、国語科教育、理科教育、特別支援教育）
③ アメリカとハンガリーを含む諸外国の動向を踏まえた音楽科教員養成のあり方
（教育学、英語教育等）

教員氏名　金光　真理子　　Kanemitsu Mariko
専門領域　音楽
担当科目　教育デザイン，教育インターン，音楽表現実践論講義Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　音楽学、民族音楽学
私の教育デザイン
① 世界の音楽・日本の音楽の指導法
－文化相対主義やオリエンタリズムなど、異文化（音楽文化）へのアプローチの課題を踏まえた音楽教育の方法を検討する。
（社会学）
② 世界の音楽・日本の音楽の教材研究
－民族音楽学や日本音楽研究の知見に基づき、各地の音楽実践を、そのコンテクストとともに理解した上で、学校教育へ活かす可能性を検討する。
③ パフォーマンス研究
－音楽や舞踊などの表現を、「産物」としてではなく、それを生み出す「身体性」の観点から再検討する。
（体育、美術、国語、心理等）

教員氏名　河野　克典　　Kono Katsunori
専門領域　音楽
担当科目　教育デザイン，教育インターン，声楽実践論講義Ⅰ/Ⅱ，声楽実践論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　声楽
私の教育デザイン
① 発声法と呼吸法、および声楽指導法の研究
② 歌曲における日本語、ドイツ語、イタリア語の発音と表現の研究
＊歌唱、旋律の中での発音法の研究
＊発声法に即した発音法の研究
③ 声楽曲、および言葉を使用した表現方法の探究
＊楽譜を読む力の習得
＊詩、歌詞の解釈と表現法の研究（朗読を含む）
＊声楽曲の演奏解釈、表現法の研究

教員氏名　島田　広　　Shimada Hiroshi
専門領域　音楽
担当科目　教育デザイン，教育インターン，作曲実践論講義Ⅰ/Ⅱ，作曲実践論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　作曲、音楽理論
私の教育デザイン
① 発達段階に応じた音楽創作指導法の研究：
学校教育の実態と西洋音楽理論に根差した効果的な方法の模索（公立小・中学校との連携研究を含む）
② 音楽教材の適切な分析方法に関する研究：
授業運営に役立つ視点の発見
③ 音楽素材の拡大と作曲法の発展に関する研究：

教員氏名　中嶋　俊夫　　Nakajima Toshio
専門領域　音楽
担当科目　教育デザイン，教育インターン，音楽教授法講義Ⅰ/Ⅱ，音楽教授法演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　音楽教育学、音楽科教育法、イタリアの音楽教育
私の教育デザイン
① 音楽的体験を共有する「場づくり」
音楽の表現活動の場がどのような要因によって成立し、共有体験へと導かれるのか、他者とともに活動する場、表現の解釈と関わるもう一つの場（コンテクスト）から捉え、指導実践に活用する。（保健体育、国語）
② 子どもの表現活動を総合的に考える
音楽と他の表現領域との関連性から表現活動を捉え、子どもの感性や情動がどのように表現へと導かれるか、その指導の実現を図る。（保健体育、美術、国語）
③ 日本と海外の表現教育の比較
表現教育はコミュニケーション能力や人格形成と関わる子どもの成長を支援するものであり、そこには文化風土、教育環境といった各国の独自性が現れる。外国（たとえばイタリア）との比較の視点から、日本の子どもたちの表現力の育成をデザインする。（美術、保健体育、教育学、心理学）

教員氏名　赤木　範陸　　Akagi Norimichi
専門領域　美術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，絵画実践論講義Ⅰ/Ⅱ，絵画実践論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　古典絵画技法及び材料（エンカウスティーク、グリザイユ、混合技法、テンペラ、油彩）
私の教育デザイン
① 古典絵画を知る；古典絵画の模写により物理的構造を知る。
② 絵画材料を知る；絵の具を自製する事で絵の具の成り立ちを知る。
③ テンペラと油彩による重なりからもたらされる絵画の特質を知る。

教員氏名　大泉　義一　　Oizumi Yoshiichi
専門領域　美術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，美術教授法講義Ⅰ/Ⅱ，美術教授法演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　美術教育学
私の教育デザイン
① 普通教育におけるデザイン教育に関する歴史研究
・文献や教科書の分析
（社会，技術，教育学）
② 子どものためのデザイン教育実践研究
・小中学校及び地域、文化施設におけるデザイン学習プログラム開発と実践
・造形ワークショップの開発と実践〔『アートツールキャラバン』として展開中〕
・企業と提携した実践研究〔『FUJITSUDESIGN+Metadesign+横国大』として展開中〕
（社会，技術，教育学，都市イノベーション学府）
③ 図画工作・美術科の授業研究
・１単位時間に生起する［子ども－教師］間の関係性を対象とするミクロな視点に基づく授業研究
・カリキュラムさらには学校種間接続を対象とするマクロな視点に基づく授業研究
（教育学）
・表現と鑑賞の一体化にかんする研究

教員氏名　小野　康男　　Ono Yasuo
専門領域　美術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，美術表現実践論講義Ⅰ/Ⅱ，美術表現実践論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　美学・芸術学（特に現代フランス思想）
私の教育デザイン
① 美術教育に関する人間学的基礎付けの研究
② サブ・カルチャーを含むイメージ論研究
③ 美術鑑賞に関する美学的・美術史的基礎付けの研究
④ 芸術論・イメージ論・表現論に根ざした人間理解・社会理解
教育学・人間学・哲学・精神分析などとの連携

教員氏名　小池　研二　　Koike Kenji
専門領域　美術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，美術カリキュラム論講義Ⅰ/Ⅱ，美術カリキュラム論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　教科教育学（中学校美術）
私の教育デザイン
① 中学校を中心にした美術科教育についての実践研究
・中学校における表現と鑑賞の一体化について
・岩絵の具や箔等の日本画材を活用した美術の授業についての実践研究
（教育学、社会、理科）
② 美術館等の社会教育施設と連携した美術鑑賞教育の実践研究
・対話型鑑賞の在り方について
・鑑賞補助教材を活用した鑑賞教育
（教育学、社会、国語）
③ 国際バカロレア中等課程プログラム（MYP）における美術教育
・MYPの考え方を生かした美術教育の可能性を探る
・MYP芸術科と我が国美術科教育との比較、検討
・学習進歩ワークブックを活用した美術科の授業についての研究
（教育学等）

教員氏名　原口　健一　　Haraguchi Kenichi
専門領域　美術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，工芸実践論講義Ⅰ/Ⅱ，工芸実践論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　木工芸
私の教育デザイン
① 工芸制作において道具の扱いにはじまる技の習得は必須である。工芸とは加工する行為と其処から発生する疑問や思考の繰り返しの中から自己を見いだし確立させていく分野である。自ら問いを設定し、自ら解決出来る能力（自律性）の育成。
② 私たちの生活において密接な存在であり、自然素材である木という存在に多様な側面から関わる事によって、自らの生活環境、社会を見つめなおし、現代の人間社会にとってより良い環境とは何かを考える。私たちの社会には多くの先人達の残した伝統工芸がある。
③ それぞれの伝統工芸が社会との関連において固有に持つ価値や重要性を見いだし、その意義を現代においてどう位置づけ活かすのかを検討する。

教員氏名　藤森　民雄　　Fujimori Tamio
専門領域　美術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，彫刻実践論講義Ⅰ/Ⅱ，彫刻実践論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　彫刻
私の教育デザイン
① 彫刻の制作実習：制作表現（立体の造形感覚及び技術）の習得を養うと共に、造形的な創造活動の基礎的な能力取得を通して自己発見し、豊かな情操を養い、知性の背後に働く感性の普遍的根拠の理解
② 彫刻作品の鑑賞と理解：鑑賞（美術館、資料等）を通して、作品の良さ、美しさ、意図、歴史的背景を理解し、自分自身で意味を読み取り、判断できる力の習得
③ 彫刻芸術の特質と限界を歴史的、発生論的な見地から、心理的、美的観点へと検証する。そして彫刻が他の芸術、絵画や建築などと、原理的にどういう点で違うのか検討する

教員氏名　渡辺　邦夫　　Watanabe Kunio
専門領域　美術
担当科目　教育デザイン，教育インターン，デザイン実践論講義Ⅰ/Ⅱ，デザイン実践論演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　デザイン（中学校美術）
私の教育デザイン
① 視覚伝達デザイン領域に於ける最も社会的であり、且つ最も身近な視覚記号である図像や文字、つまりシンボルマークやロゴタイプといわれるものの造形性や色彩の可能性に関する研究（記号学、認知心理学、色彩学、視覚言語、ビジュアルコミュニケーション、デザイン戦略）
② 視覚伝達デザイン領域に於ける最も伝統的技法であり、且つ最も汎用で身近な視覚伝達手段にポスターがあるが、その中でも特に地球環境保護を主題とする作品やその制作に関する研究（認知心理学、色彩学、視覚言語、ビジュアルコミュニケーション、イラストレーション）
③ 子供の為の知育玩具及び教材の開発／小学校～中学校～高等学校～大学迄、学習現場で使用される具体的な機能を持つ新しい教育の為の教材開発、および形体デザインの研究（学習学、行動学、認知学、認知心理学、教育デザイン、アフォーダンス、プロダクトデザイン）

教員氏名　伊藤　信之　　Ito Nobuyuki
専門領域　保健体育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，運動学講義B（コーチング学）Ⅰ/Ⅱ，運動学演習B（コーチング学）Ⅰ/Ⅱ，保健体育科教育学講義BⅠ/BⅡ，保健体育科教育学演習BⅠ/BⅡ，課題研究
専　　門　トレーニング論，バイオメカニクス，コーチング論
私の教育デザイン
① 運動発達に応じたスポーツ・運動の取り組み方の検討
PHV年齢以後での運動の取り組み方
ゴールデン・エイジにおける効果的な運動指導
② 異なる技能レベルの児童・生徒が混在しているクラスでの指導プログラムの開発
運動の要素分けと自動化のレベルを考慮して，チャレンジングな課題の設定
③ 運動や技能の評価システム開発を通しての効果的な介入指導
評価を行うための準備（活動・運動者に関する知識）
観察法の実行および拡張
パフォーマンスに関する調査および改善優先順位づけ
視覚的モデルを活用したフィードバック，動作の強調，課題の変更

教員氏名　梅澤　秋久　　Umezawa Akihisa
専門領域　保健体育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，保健体育科教育学講義AⅠ/AⅡ，保健体育科教育学演習AⅠ/AⅡ，課題研究
専　　門　体育科教育学、スポーツ教育学
私の教育デザイン
① 知識基盤社会における体育科教育の在り方についての探究
・関係論的視点に立つ体育科教育
・動きの「感じ」と「気づき」を大切にした体育科教育
・「協働」と「創造」による体育科教育
・体育科における教育学的ケアリング
② 質的なアカウンタビリティに資する体育科教育の探究
・量から質への転換を図るための実践研究
・ステイクホルダーとの双方向コミュニケーションの手段に関する研究
・ポートフォリオとルーブリックの実践研究
③ パフォーマンス評価における教育的鑑識眼の探究
・専門職としての「見とり」手段の探究
・即時的フィードバックに関する研究
・学習者の視点を重視した言葉かけに関する実践研究

教員氏名　海老原　修　　Ebihara Osamu
専門領域　保健体育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，体育社会学講義Ⅰ/Ⅱ，体育社会学演習Ⅰ/Ⅱ，保健体育科教育学講義BⅠ/BⅡ，保健体育科教育学演習BⅠ/BⅡ，課題研究
専　　門　体育社会学、スポーツ社会学、健康社会学
私の教育デザイン
① 学社融合にともなう実践的指導力の省察：学内の自己を描くために学外の他者性が必須となる。学外の教育的機関との協働プログラムを通じて、高度な専門性と実践的な指導力を刺激する。
② 体育・スポーツ社会学的アプローチ：スポーツに魅せられる理由はいくつかのルートを経た先に楽しみと面白さがあると予見できるからである。それを手に入れるか否かはもちろん、どのルートを選ぶかは、人々の自由に委ねられねばならない。
③ 健康社会学的アプローチ：家族や地域社会が担ったセイフティーネット機能が急速に脆弱化する。孤独な群衆の果てにたどりつく隣人の無関心が地域社会を崩壊せしめる。一方、地域社会が共有課題の発見と解決に取り組む挑戦的なプロジェクトもある。生理的な「必要」（ニーズ）でありながら高次の「欲求」（ウォンツ）ともなる「健康」をわれわれは保証できるのだろうか。

教員氏名　木村　昌彦　　Kimura Masahiko
専門領域　保健体育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，運動学講義A（体力科学）Ⅰ/Ⅱ，運動学演習A（体力科学）Ⅰ/Ⅱ，保健体育科教育学講義BⅠ/BⅡ，保健体育科教育学演習BⅠ/BⅡ，課題研究
専　　門　柔道、体力科学、コーチング
私の教育デザイン
① 中学校武道必修化に伴う柔道授業の教材開発：
安全管理と運動学的な観点からの新たな教材の開発。
既存の伝統的な指導法を発展的に進化させる。
実際の投げ技に対応できる受け身の研究
② 発育発達に伴う柔道指導法の教材開発：
子どもの体力を踏まえた受け身の開発
発育発達を考慮した投げ技の研究
子どもの動機づけを高める指導法
柔道が子どもの人格形成に与える影響の研究
③ 発育発達を考慮した小学校体育の教材開発
基本動作をいかに身につけるか
動機づけを高める教材研究の開発

教員氏名　高橋　和子　　Takahashi Kazuko
専門領域　保健体育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，保健体育内容学講義A（舞踊学）Ⅰ/Ⅱ，保健体育内容学演習A（舞踊学）Ⅰ/Ⅱ，保健体育科教育学講義BⅠ/BⅡ，保健体育科教育学演習BⅠ/BⅡ，課題研究
専　　門　舞踊教育学、体育科教育学
私の教育デザイン
① 学習環境デザインの観点からの授業支援
小中高でのダンス授業の立案と実施
［成果物：中１ギャップを克服をめざして－男女必修ダンスの指導法開発を推進する小中連携－，2010］
② 教育実習における省察ツール開発と指導
教育実習指導の支援
看護教員・実習指導者の支援
［成果物：「からだ気づきDVD」2008、北代・高橋：教師のODORIBA2011］
③ 学校の表現活動における授業デザイン
舞台に立つ体験の支援
附属鎌倉小学校「鎌倉なんとかナーレ」参加
［成果物：「新ダンス授業実践講座DVD発刊」2010］

教員氏名　田中　英登　　Tanaka Hideto
専門領域　保健体育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，身体適応学講義Ⅰ/Ⅱ，身体適応学演習Ⅰ/Ⅱ，保健体育科教育学講義BⅠ/BⅡ，保健体育科教育学演習BⅠ/BⅡ，課題研究
専　　門　環境生理学・体力科学
私の教育デザイン
① 保健体育科教育における題材として「環境と身体の関係」の理解を深め、現代社会における問題点を探り、その問題の解決策などを考える。
（社会、家政、理科）
② 子供の発育発達と生活習慣
幼児から思春期前までの生活習慣は身体の形態的・機能的発育発達に大きな影響を及ぼすことを幼児教育者及び小学校教員が理解し、適切な生活習慣について現代生活問題から、身体への刺激と適応的変化の関係について検討する。（家政、理科）
③ 学校環境における安全対策の観点から、環境の安全性を評価するプログラムの開発、実施を行う。
（理科、社会）

教員氏名　物部　博文　　Monobe Hirofumi
専門領域　保健体育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，学校保健学講義Ⅰ/Ⅱ，学校保健学演習Ⅰ/Ⅱ，保健体育科教育学講義BⅠ/BⅡ，保健体育科教育学演習BⅠ/BⅡ，課題研究
専　　門　学校保健学，健康教育学
私の教育デザイン
① 児童・生徒の健康行動・危険行動の背景の探求
② 保健学習および健康教育における指導法についての研究
③ 密閉衣服着用時の体温管理・熱中症予防についての研究

教員氏名　森本　茂　　Morimoto Shigeru
専門領域　保健体育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，運動生理学講義Ⅰ/Ⅱ，運動生理学演習Ⅰ/Ⅱ，保健体育科教育学講義BⅠ/BⅡ，保健体育科教育学演習BⅠ/BⅡ，課題研究
専　　門　生理学、運動生理学
私の教育デザイン
保健体育科教育の在り方を生体機能から追及する：
① “生命維持”のための“生命現象”発現の意味と合目的性
② 運動刺激と生体内環境の恒常性維持を目的とした反応
③ 中枢神経系と感覚器系の発育・発達と教育の適時性の考え方
④ 生体機能・構造の変化動態を観察する“観察眼”の獲得（目標）
個人的な研究領域：bridge the gap between *in vivo* and *in vitro*.

教員氏名　横山　直也　　Yokoyama Naoya
専門領域　保健体育
担当科目　教育デザイン，教育インターン，保健体育内容学講義B（武道学）Ⅰ/Ⅱ，保健体育内容学演習B（武道学）Ⅰ/Ⅱ，保健体育科教育学講義BⅠ/BⅡ，保健体育科教育学演習BⅠ/BⅡ，課題研究
専　　門　体育方法学、剣道
私の教育デザイン
① 武道の教育的意義
武道の伝統文化と近代化
運動技術としての武道の特性
武道の競技化とルールの特性
② 伝統的な考え方や行動の仕方を踏まえた武道カリキュラムの開発
武道の身体技法
武道の技の体系
武道の施設・用具
③ 安全性や楽しさに配慮した剣道教材の開発と指導法
対人性を重視した指導
導入段階における剣道遊びとゲーム的内容

教員氏名　泉　真由子　　Izumi Mayuko
専門領域　特別支援教育専修
担当科目　教育デザイン，特別支援教育実地指導，特別支援教育臨床実習，障害児ケース支援研究，障害学講義Ⅰ/Ⅱ，障害学演習Ⅰ/Ⅱ，病弱教育学講義Ⅰ/Ⅱ，病弱教育学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　病弱児教育・心理，発達臨床心理学
私の教育デザイン
① 病虚弱児に対する効果的な支援方法の検討：
慢性疾患等を抱える児童・生徒に対する効果的な教育的・心理的支援方法に関する研究
（心理学・教育学との連携）
② 健常児者と障害児者の共生：
健常児者と障害児者が同じ環境で生活する際のよりよい相互作用、相互理解をもたらす要因に関する研究
（あらゆる領域）
③ evidence-basedな実践・研究ができる能力の育成：
課題を解決するための資料としての質的あるいは量的データの収集、分析、解釈を的確に行い、それを実践に繋げることができる能力の育成
（あらゆる領域）

教員氏名　軍司　敦子　　Gunji Atsuko
専門領域　特別支援教育専修
担当科目　教育デザイン，教育インターン，障害児精神病理学講義Ⅰ/Ⅱ，障碍児精神病理演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　障害児生理学、神経科学
私の教育デザイン
発達障害のある児・者への支援を考えるうえで重要な役割を担う下記の三点に注目し、おもに神経生理学の手法を用いた研究を展開します。
① 障害の病態解明（コミュニケーションやソーシャルスキル、行動の問題など）
② 障害の程度や支援の有効性についての客観的な定量評価法の開発
③ 教育実践を想定した問題解決能力の育成

教員氏名　関戸　英紀　　Sekido Hidenori
専門領域　特別支援教育専修
担当科目　教育デザイン，特別支援教育実地指導，特別支援教育臨床実習，障害児ケース支援研究，障害学講義Ⅰ/Ⅱ，障害学演習Ⅰ/Ⅱ，知的障害教育学講義Ⅰ/Ⅱ，知的障害教育学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　特別支援教育
私の教育デザイン
① 知的障害児に対する効果的な支援方法の検討
知的障害児（自閉症児を含む）に対する効果的な支援方法（言語・コミュニケーション、行動問題、アカデミック・スキル、ソーシャル・スキル等）に関する教育・研究（心理学・教育学との連携）
② 知的障害児の支援における実践力の向上
知的障害児（自閉症児を含む）に対する実際の支援を通して、アセスメント、支援目標の設定、実際の支援、評価までの一連の流れを具体的に教育・研究
（心理学・教育学との連携）
③ 様々な支援方法（理論）と教育実践との融合
evidence-basedな実践・研究ができる能力の育成
（心理学・教育学との連携）

教員氏名　★高山　佳子　　Takayama Yoshiko
専門領域　特別支援教育専修
担当科目　教育デザイン，特別支援教育実地指導，特別支援教育臨床実習，障害児ケース支援研究，障害学講義Ⅰ/Ⅱ，障害学演習Ⅰ/Ⅱ，運動障害心理学講義Ⅰ/Ⅱ，運動障害心理学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　障害児心理学
私の教育デザイン
① 脳障害による運動障害児の身体と心の理解
運動障害と身体ならびに心理発達における関係性を検討し、特に知覚、記憶、概念形成などの側面から認知面に焦点を当てて障害の意味と発達に及ぼす影響を考察。
② 脳障害による運動障害児の心理発達への支援方法
様々なアセスメントの方法とその具体的活用に関して検討し、教育的支援のためのプログラム作成と開発。
③ 特別支援教育と生涯発達の視点からみた障害者の自立と社会参加への提言
運動障害を含めて幅広く障害者の自立と社会参加を教育と生涯発達の視点からどのように構築すべきか、ユニバーサルな社会にむけての多面的議論。

教員氏名　中川　辰雄　　Nakagawa Tatsuo
専門領域　特別支援教育専修
担当科目　教育デザイン，特別支援教育実地指導，特別支援教育臨床実習，障害児ケース支援研究，障害学講義Ⅰ/Ⅱ，障害学演習Ⅰ/Ⅱ，聴覚障害心理学講義Ⅰ/Ⅱ，聴覚障害心理学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　聴覚障害教育・聴覚学（Audiology）
私の教育デザイン
① 特別支援教育の中でも聴覚障害が専門で、「聞こえ」にこだわっています。聞こえること、聞こえにくいこと、聞こえないこと、聞こえ過ぎることによる影響について客観的手法と主観的手法を用いた研究を展開しています。
② キーワードは感覚補償と情報保障、聴覚障害児者の聴覚の活用と手話、それに最近は発達障害児の聴覚過敏などです。
③ 授業研究の中で教師の身体性として「声・姿・立ち位置」についても興味を持っています。

教員氏名　★林部　英雄　　Hayashibe Hideo
専門領域　特別支援教育専修
担当科目　教育デザイン，特別支援教育実地指導，特別支援教育臨床実習，障害児ケース支援研究，障害学講義Ⅰ/Ⅱ，障害学演習Ⅰ/Ⅱ，言語障害教育学講義Ⅰ/Ⅱ，言語障害教育学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　発達言語心理学
私の教育デザイン
① 行動分析学による言語行動分析
② 言語発達の生物学的基礎
③ バイリンガル環境での言語発達および第２言語習得

教員氏名　渡部　匡隆　　Watanabe Masataka
専門領域　特別支援教育専修
担当科目　教育デザイン，特別支援教育実地指導，特別支援教育臨床実習，障害児ケース支援研究，障害学講義Ⅰ/Ⅱ，障害学演習Ⅰ/Ⅱ，知的障害心理学講義Ⅰ/Ⅱ，知的障害心理学演習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　心身障害学、応用行動分析学
私の教育デザイン
自閉症スペクトラムをはじめとした発達障害のある人が、一緒に生活を営む人々を含めて、豊かで穏やかな生活を実現していくための包括的な教育支援プログラムについて検討します。具体的には、
① 自閉症スペクトラムのある人や家族との臨床の中で、支援スキルを養うとともに特性の理解と適切な支援方法についてデザインします。
② 家族やきょうだい、担任や級友など、その人にとって大切な人を支えるための方法についてデザインします。
③ 小・中学校、特別支援学校、福祉施設などにおいて、その人を組織やチームが効果的に支援するための方法についてデザインします。

教員氏名　井上　果子　　Inoue Kako
専門領域　臨床心理学専修
担当科目　教育デザイン，学校臨床実習，臨床心理学特論Ⅰ/Ⅱ，臨床心理実習，課題研究
専　　門　臨床心理学、精神分析学
私の教育デザイン
① 関係性の病理：乳幼児期から成人期における関係性のゆがみや病理についての研究。家庭内外で（公私に渡って）の関係性の問題について心理学、精神分析学の視点から扱っていく研究。
② 心理療法の実施：精神分析学理論に基づいた人格や集団や組織の査定および心理療法の実施、心理療法の指導、心理療法の研究。
③ アウトリーチ・リエゾンの臨床支援実施：保育所や社会福祉などの組織におけるアウトリーチの臨床心理面接およびガイダンス。さらに、リエゾン支援のガイダンス。

教員氏名　鈴木　朋子　　Suzuki Tomoko
専門領域　臨床心理学専修
担当科目　教育デザイン，学校臨床実習，臨床心理面接特論Ⅰ，臨床心理査定演習Ⅰ，臨床心理基礎実習Ⅰ/Ⅱ，臨床心理関連行政論，心理療法特論，課題研究
専　　門　臨床心理学，心理学史
私の教育デザイン
① 心理検査による児童の心理特性の査定と支援
　知能検査による知的能力の評価法
　心理検査による発達障害や情緒障害の査定
　心理検査結果の効果的な伝え方
　知能検査史からみた児童評価問題
② 子どもの発達を支える環境への支援
　保護者を対象とした相談の実際
　他職種を対象とした相談の実際
③ 感情のコミュニケーションとよりよい人間関係づくり
　音声による感情表現を用いたコミュニケーション
　相手に伝わりやすい感情表現

教員氏名　高木　秀明　　Takagi Hideaki
専門領域　臨床心理学専修
担当科目　教育デザイン，学校臨床実習，発達心理学特論，グループ・アプローチ特論，教育心理学特論，臨床心理基礎実習Ⅰ/Ⅱ，課題研究
専　　門　青年心理学
私の教育デザイン
① 児童・青年の発達の世代性
　時代環境や社会環境の影響を受けて成長する子どもの世代的特徴について理解する。
（教育学、特別支援教育）
② グループによる臨床的アプローチ
　グループを活用した臨床的関わり方や方法について、担当者の発表に基づき討議・検討する。
（教育学、特別支援教育）
③ ゼミ生の研究指導
　各自の研究について、発表・討論・助言を通して指導し、進み具合を監督する。
（教育学、特別支援教育）

教員氏名　宮戸　美樹　　Miyato Miki
専門領域　臨床心理学専修
担当科目　教育デザイン，学校臨床実習，学校臨床心理学特論，臨床心理面接特論Ⅱ，臨床心理査定演習Ⅱ，臨床心理基礎実習Ⅰ/Ⅱ，投影法特論Ⅰ，課題研究
専　　門　臨床心理学、社会心理学
私の教育デザイン
① 児童思春期の心理発達と社会適応支援のあり方
　子供が抱える問題の本質的理解や環境調整の実践
　発達に沿った課題や援助方法の設定
　クラス運営における子どもの理解と対応
　（心理学・特別支援教育との連携）
② 臨床心理士と他職種との連携モデルの検討
　相互の専門性の理解と対応
　効果的なコンサルテーション
　（あらゆる領域）
③ 心理発達及び健康への効用とユーモアへの態度
　ストレス耐性としてのユーモア感覚の効用
　対人コミュニケーションにおけるユーモア利用
　（あらゆる領域）